

デートDVに関する大学生意識等調査 報告書

令和3年3月

千葉県健康福祉部児童家庭課

目次

I	調査の概要	1
1.	調査の趣旨	1
2.	調査協力大学	1
3.	調査の期間	1
4.	調査の方法	1
5.	調査の項目	1
6.	回収結果	1
7.	報告書の見方	2
8.	回答者の属性	3
II	調査結果	4
1.	DVの認知度	4
2.	デートDVの認知度	7
3.	恋愛などに参考にするもの	10
4.	デートDVに該当すること	13
5.	被害経験	21
6.	被害に対する対応	25
7.	加害経験	27
8.	加害の理由	31
9.	家庭でのDV経験	33
10.	デートDV相談対応	36
11.	各種相談窓口の周知状況	41
12.	デートDV防止施策	47
13.	DV防止についての意見・要望（自由意見）	50
III	調査票	51

I 調査の概要

1. 調査の趣旨

令和3年度中に策定する千葉県DV防止・被害者支援基本計画（第5次）の基礎資料を得るため、現計画（第4次）の重点施策として位置づけている「若者を対象としたDV予防施策の充実」について、大学生を対象にアンケート調査を実施することにより、若者の意識・実態について把握し、課題を明確にする。

2. 調査協力大学

番号	調査対象大学	所在地
1	城西国際大学	東金市
2	千葉県立保健医療大学	千葉市美浜区
3	江戸川大学	流山市
4	千葉科学大学	銚子市
5	川村学園女子大学	我孫子市
6	敬愛大学	千葉市稲毛区
7	聖徳大学	松戸市
8	千葉大学	千葉市稲毛区

3. 調査の期間

令和2年10月～12月

4. 調査の方法

インターネット調査（上記8大学に回答画面のURLを送付し、学生への配信を依頼し実施）

5. 調査の項目

- (1) 「DV」「デートDV」認知度
- (2) 被害経験及び加害経験
- (3) 家族関係
- (4) 相談や取組について

6. 回収結果

回収数：1,315件（女性：936件、男性：379件）

7. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
- (5) 回答数が30未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- (6) 「時系列比較」を行っている部分は、千葉県において過去に実施した調査の結果を用いている。なお、平成22年度と平成27年度の調査は、調査票（紙）を配布・回収し実施しているが、令和2年度はインターネットで依頼・回収を行っており、調査方法が異なっている。
- (7) 文中の表記は概ね以下の表現を用いている。

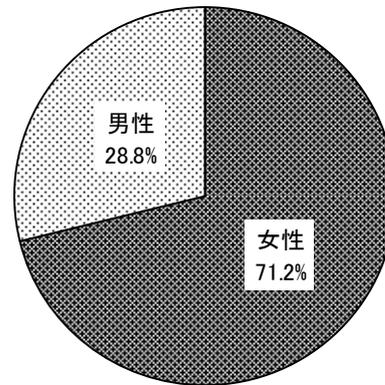
表記	約2割	2割	2割を超える	2割台半ば	約3割
範囲	17.0%~19.9%	20.0~20.9%	21.0~22.9%	23.0~26.9%	27.0~29.9%

8. 回答者の属性

(1) 性別

図表-1 性別

	人数	(%)
合計	1,315	(100.0)
女性	936	(71.2)
男性	379	(28.8)

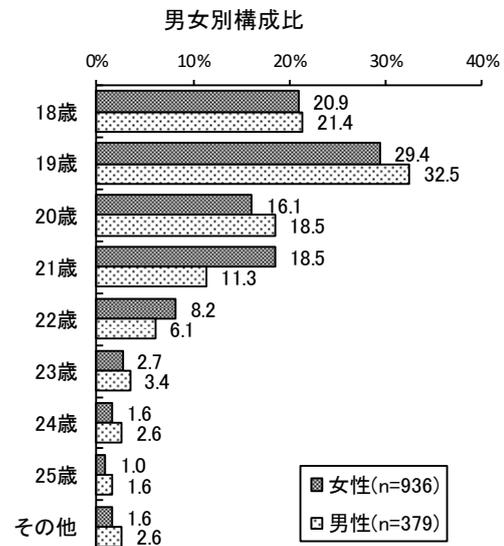
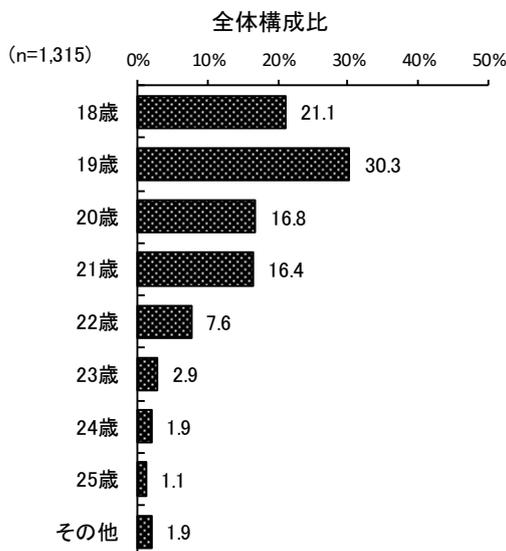


(n=1,315)

(2) 年齢

図表-2 年齢

	全体		女性		男性	
	人数	(%)	人数	(%)	人数	(%)
合計	1,315	(100.0)	936	(100.0)	379	(100.0)
18歳	277	(21.1)	196	(20.9)	81	(21.4)
19歳	398	(30.3)	275	(29.4)	123	(32.5)
20歳	221	(16.8)	151	(16.1)	70	(18.5)
21歳	216	(16.4)	173	(18.5)	43	(11.3)
22歳	100	(7.6)	77	(8.2)	23	(6.1)
23歳	38	(2.9)	25	(2.7)	13	(3.4)
24歳	25	(1.9)	15	(1.6)	10	(2.6)
25歳	15	(1.1)	9	(1.0)	6	(1.6)
その他	25	(1.9)	15	(1.6)	10	(2.6)



II 調査結果

1. DVの認知度

◆DVの認知度は8割台半ば

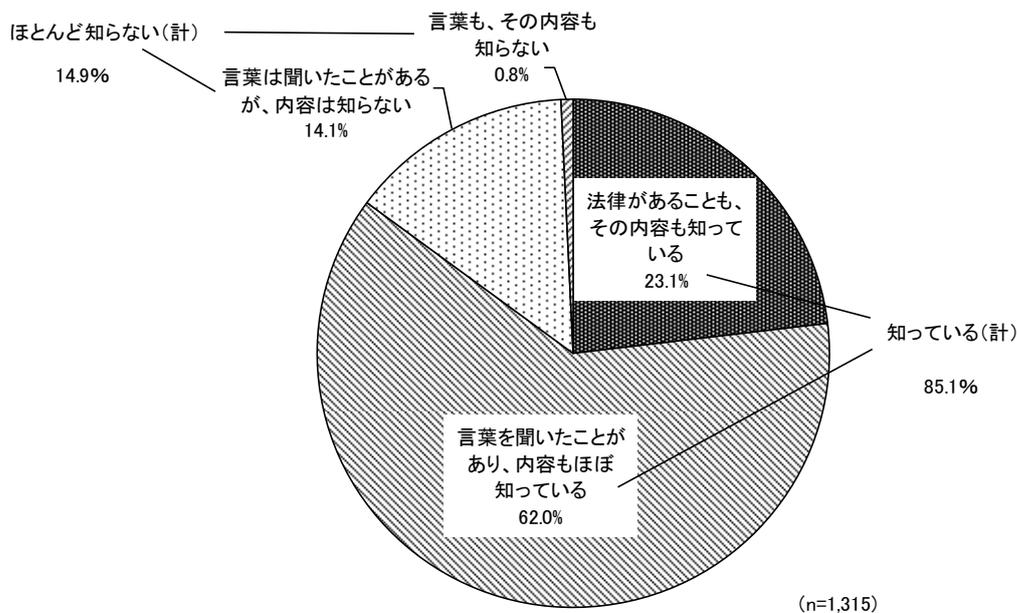
問3 あなたは、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」を知っていますか。（一つのみ）

DVについて、「法律があることも、その内容も知っている」（23.1%）と「言葉を聞いたことがあり、内容もほぼ知っている」（62.0%）を合わせた「知っている（計）」は85.1%と8割台半ばを占めている。一方、「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」（14.1%）と「言葉も、その内容も知らない」（0.8%）を合わせた「ほとんど知らない（計）」は14.9%と1割台半ばであった。

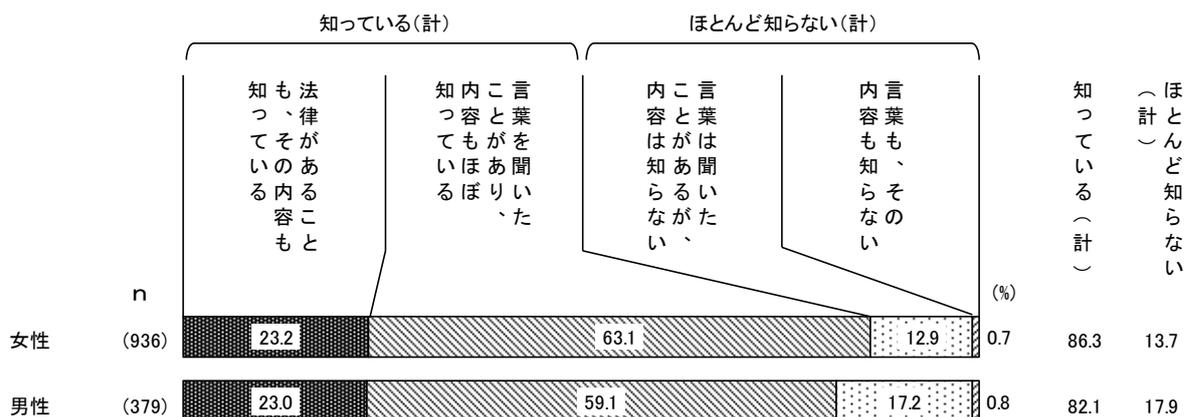
（図表-3）

性別にみると、「知っている（計）」は女性が86.3%で男性が82.1%と、女性のDVの認知度が男性に比べ4.2ポイント高くなっている。（図表-4）

図表-3 DVの認知度（全体）

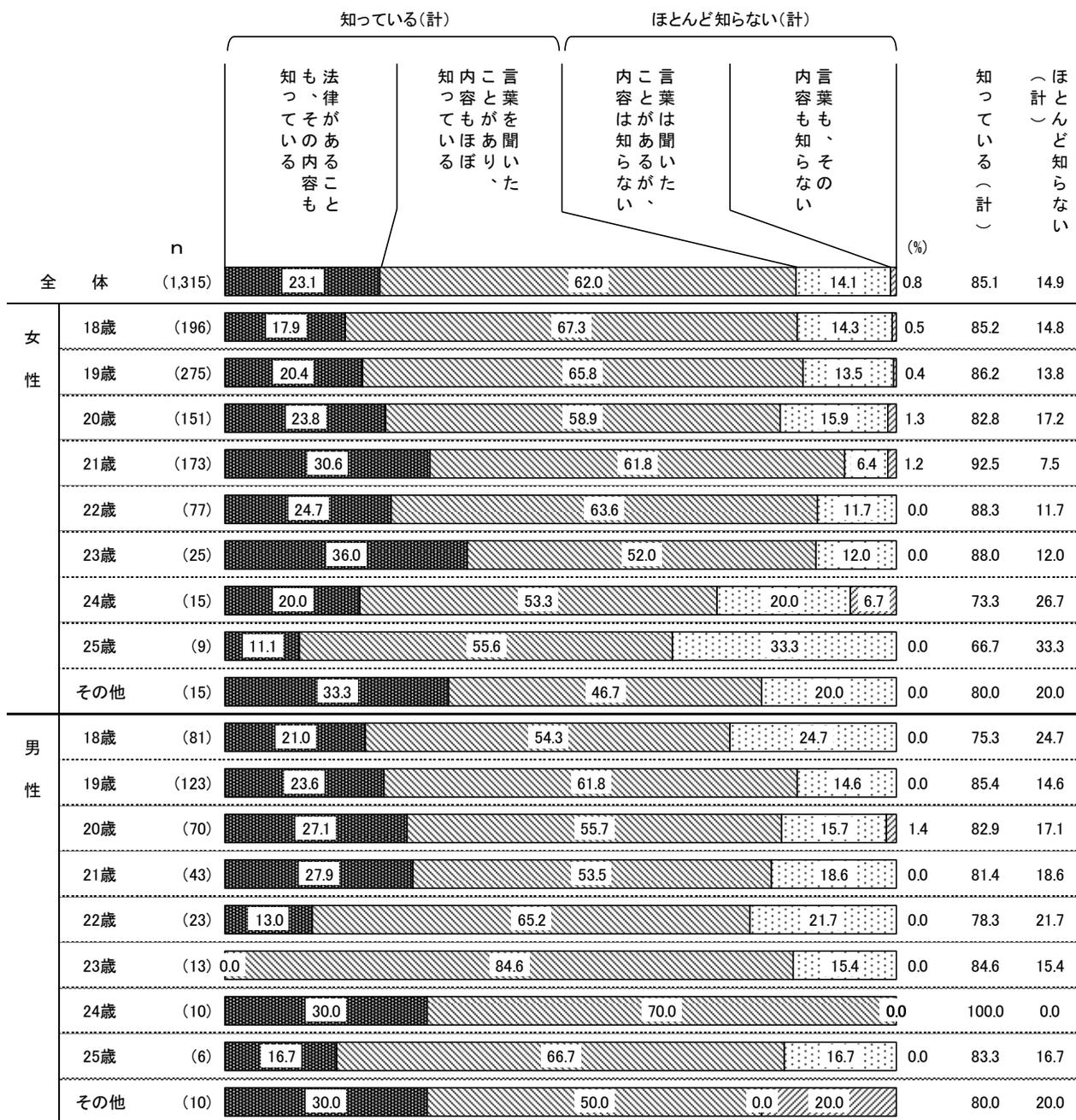


図表-4 DVの認知度（性別）



性年齢別にみると、男女ともに18～21歳までは、年齢が上がるに従い、「法律があることも、その内容も知っている」の割合が高まる傾向が見られる。(図表-5)

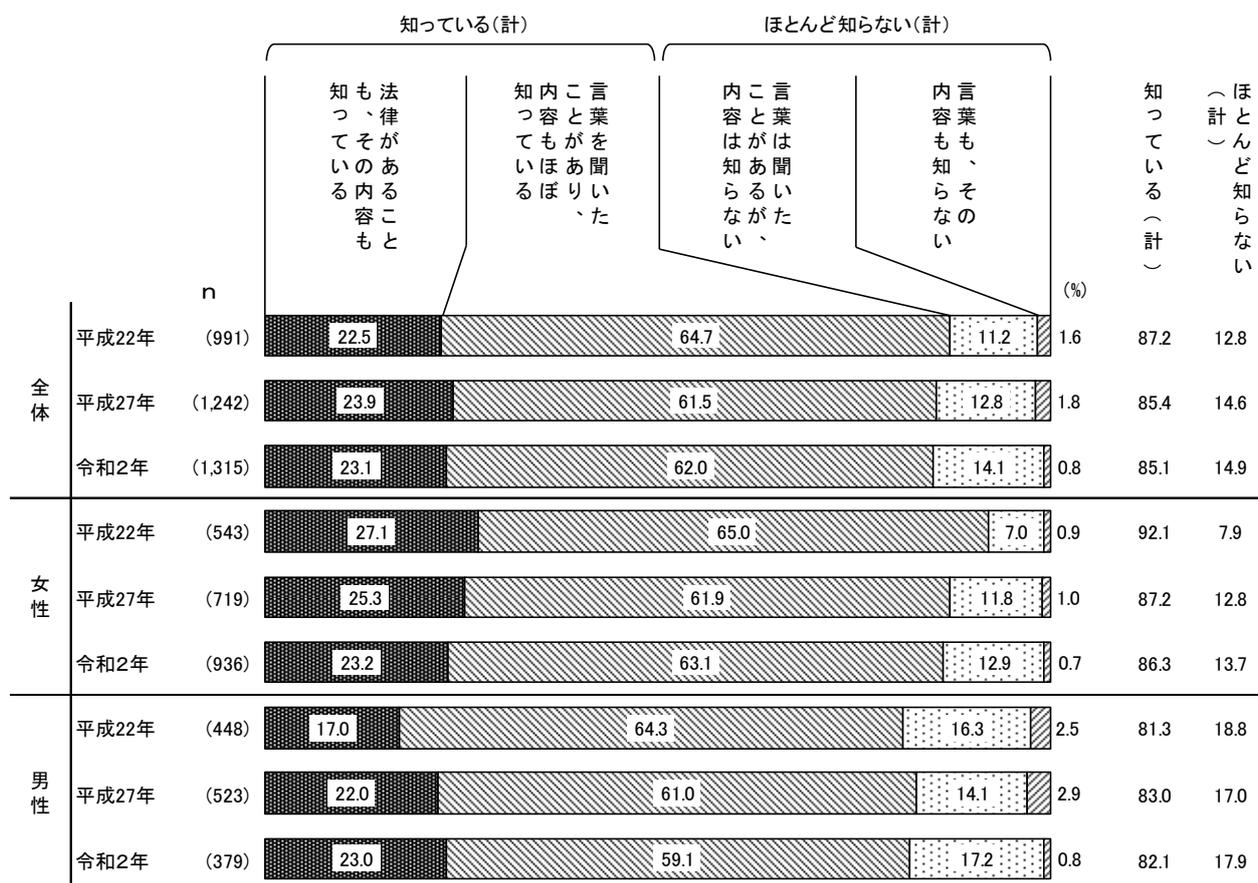
図表-5 DVの認知度(性年齢別)



時系列比較では、「知っている（計）」は、男女とも平成27年度とほぼ同水準となっている。

(図表-6)

図表-6 DVの認知度（時系列比較）



2. デートDVの認知度

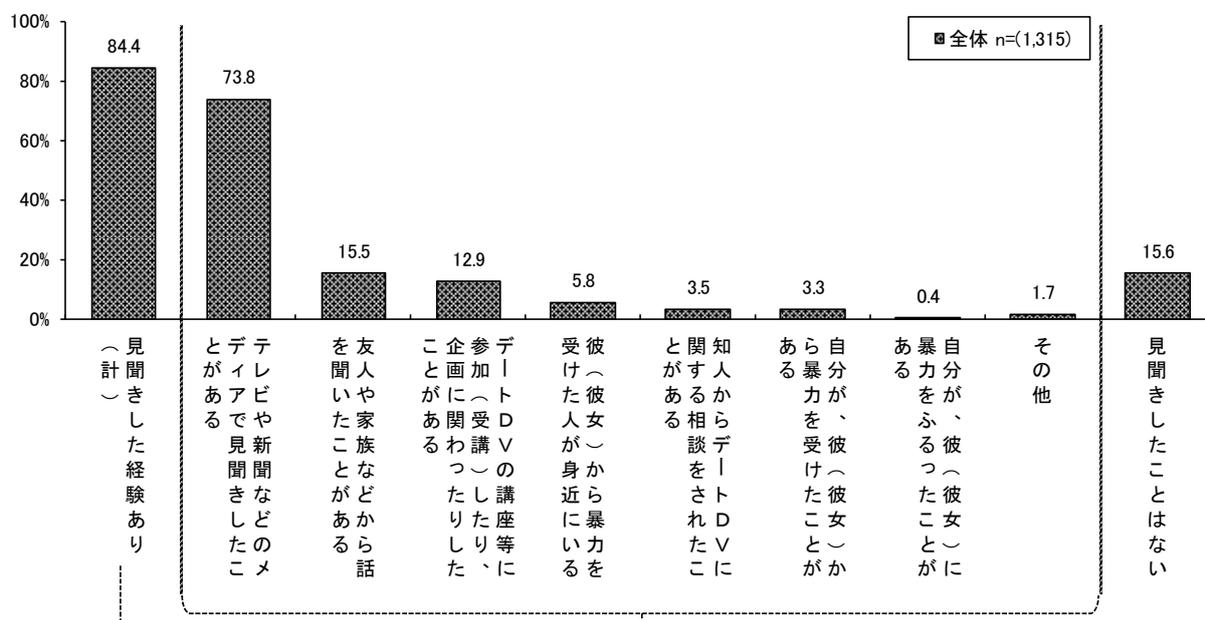
◆デートDVの認知度は8割台半ば、テレビや新聞などのメディアでの認知が大半を占める

問4 あなたは、「デートDV（交際相手からの暴力）」について見たり聞いたりしたことがありますか。（いくつでも）

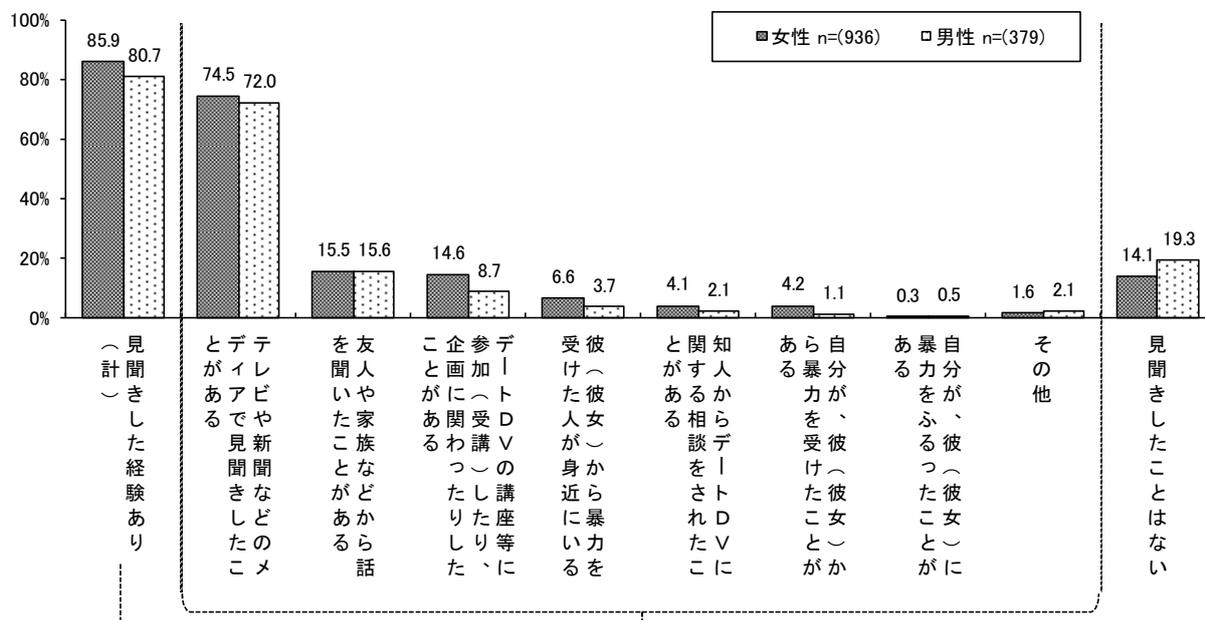
デートDVについて、「見聞きした経験あり（計）」（認知度）は、84.4%となっている。また、詳細をみると「テレビや新聞などのメディアで見聞きしたことがある」が73.8%と最も高く、離れて「友人や家族などから話を聞いたことがある」（15.5%）が次いでいる。（図表-7）

性別にみると、認知度は、女性（85.9%）が男性（80.7%）を5.2ポイント上回っている。また、詳細では、「デートDVの講座等に参加（受講）したり、企画に関わったりしたことがある」で、女性（14.6%）が男性（8.7%）を5.9ポイント上回っている。（図表-8）

図表-7 デートDVについて見聞きした経験（全体）

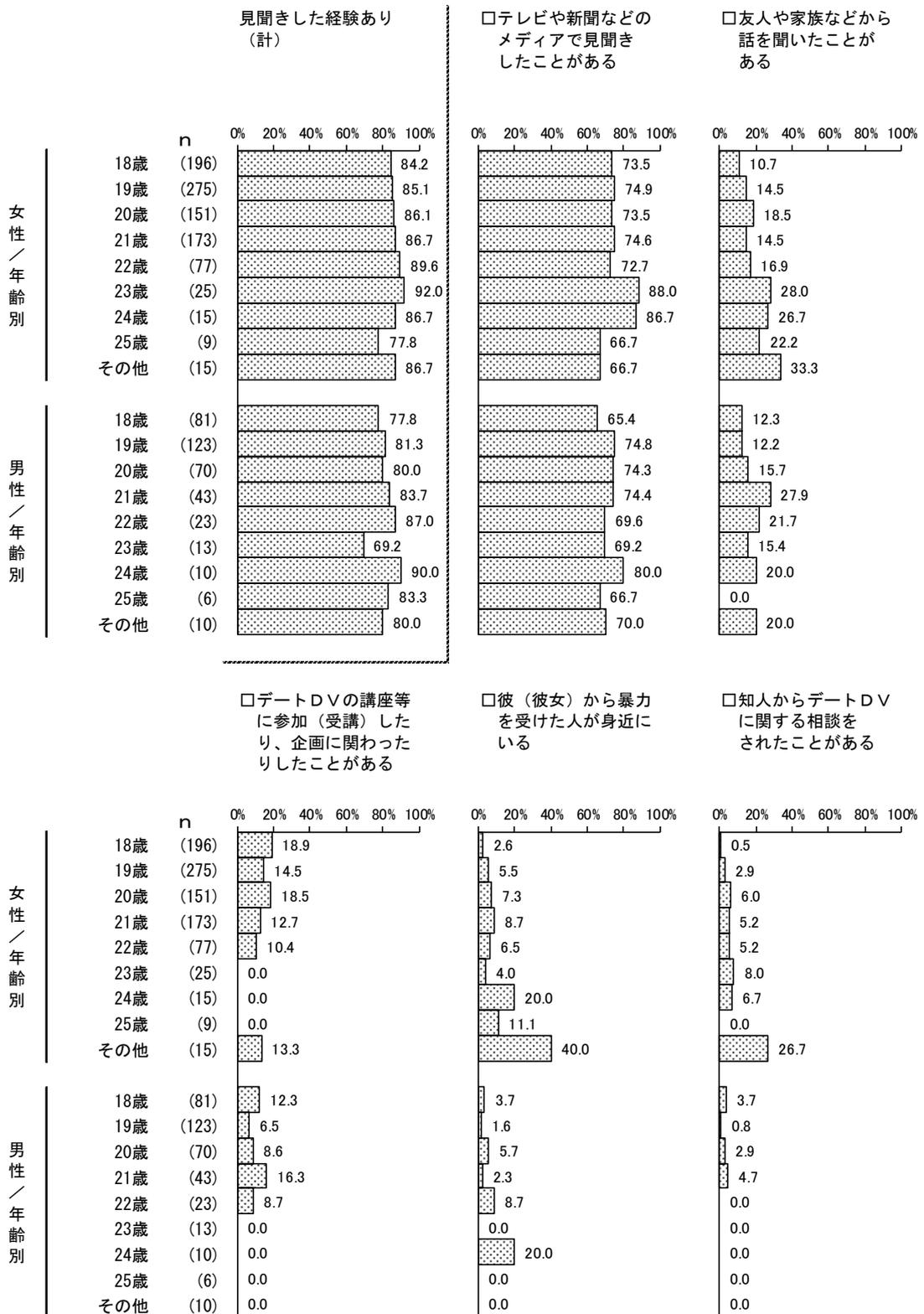


図表-8 デートDVについて見聞きした経験（性別）



性年齢別にみると、女性では18～23歳まで、男性では18～22歳までについて、年齢が上がるに従い「見聞きした経験あり（計）」の割合が緩やかに高まる傾向が見られる。（図表－9）

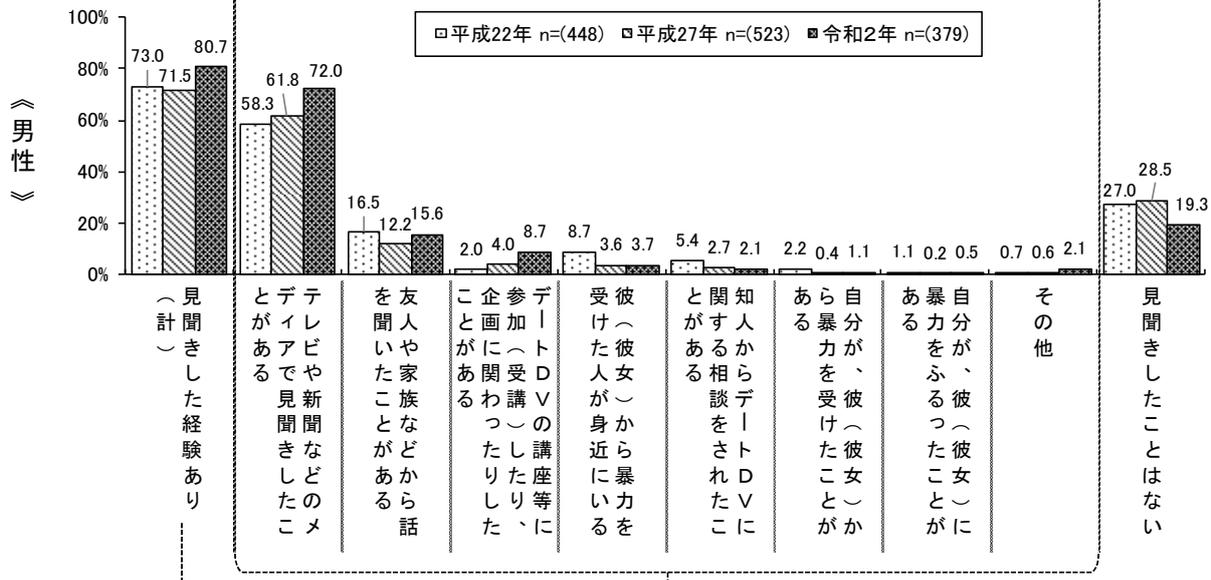
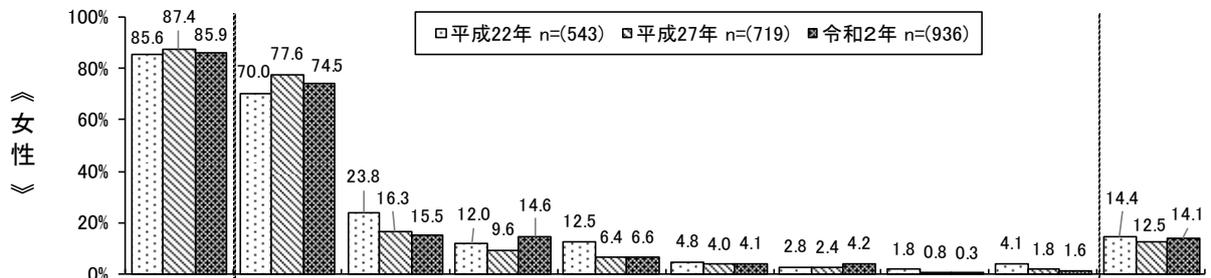
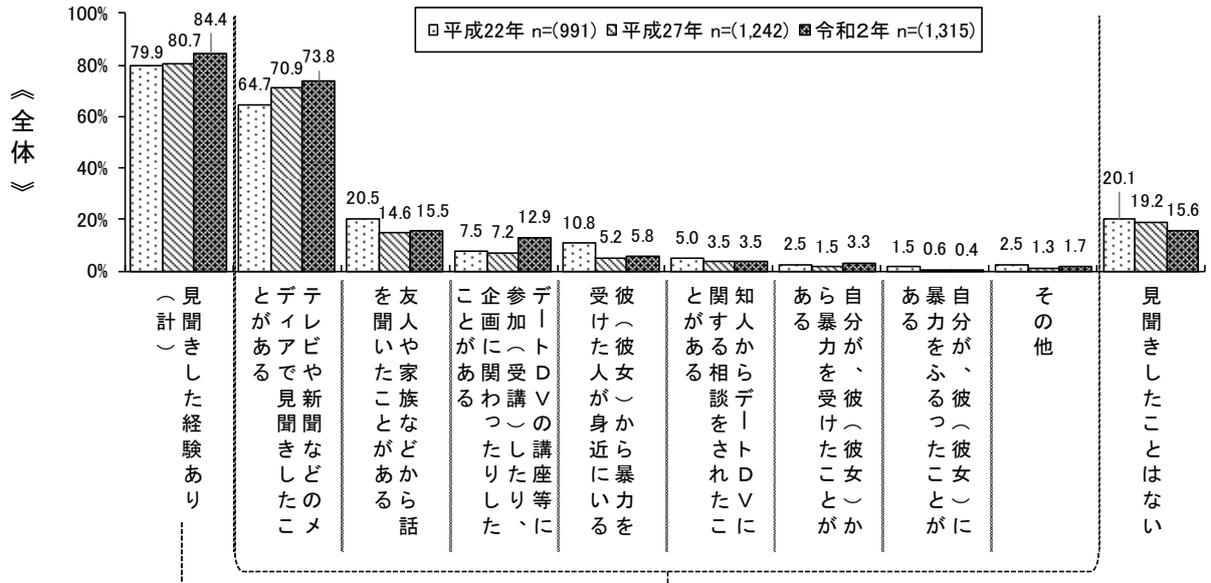
図表－9 デートDVについて見聞きした経験（性年齢別）
 <見聞きした経験あり（計）、上位5項目>



時系列比較では、「見聞きした経験あり（計）」は、全体では平成27年から3.7ポイント増加している。また、女性は平成27年から1.5ポイント減少し、男性は9.2ポイント増加している。

詳細では、男性で「テレビや新聞などのメディアで見聞きしたことがある」が平成27年から10.2ポイント増加している。（図表-10）

表-10 デートDVについて見聞きした経験（時系列比較）



3. 恋愛などに参考にするもの

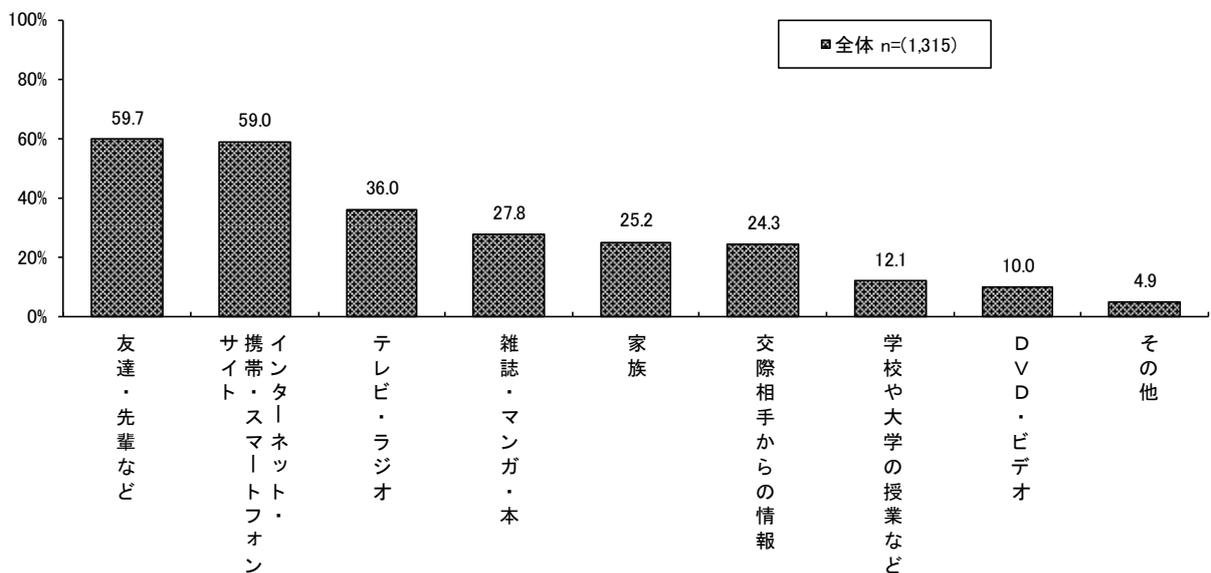
◆「友達・先輩など」、「インターネット・携帯・スマートフォンサイト」がともに約6割

問5 彼（彼女）との付き合い方や恋愛について、あなたが参考にした、影響を受けたりしているものがありますか。（いくつでも）

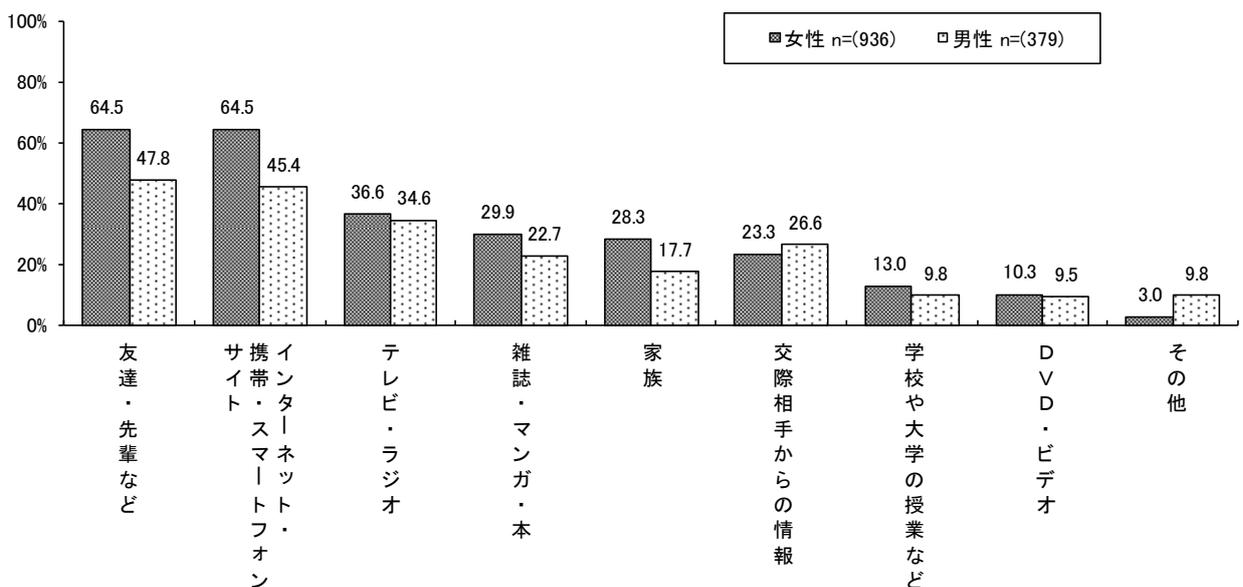
恋愛などに参考にするものでは、「友達・先輩など」が59.7%と最も高く、「インターネット・携帯・スマートフォンサイト」（59.0%）が僅差で次いでおり、「テレビ・ラジオ」（36.0%）が続いている。（図表－11）

性別にみると、男女とも「友達・先輩など」、「インターネット・携帯・スマートフォンサイト」が上位であるが、女性が男性に比べ参考とする割合が高くなっている。（図表－12）

図表－11 恋愛などに参考にするもの（全体）



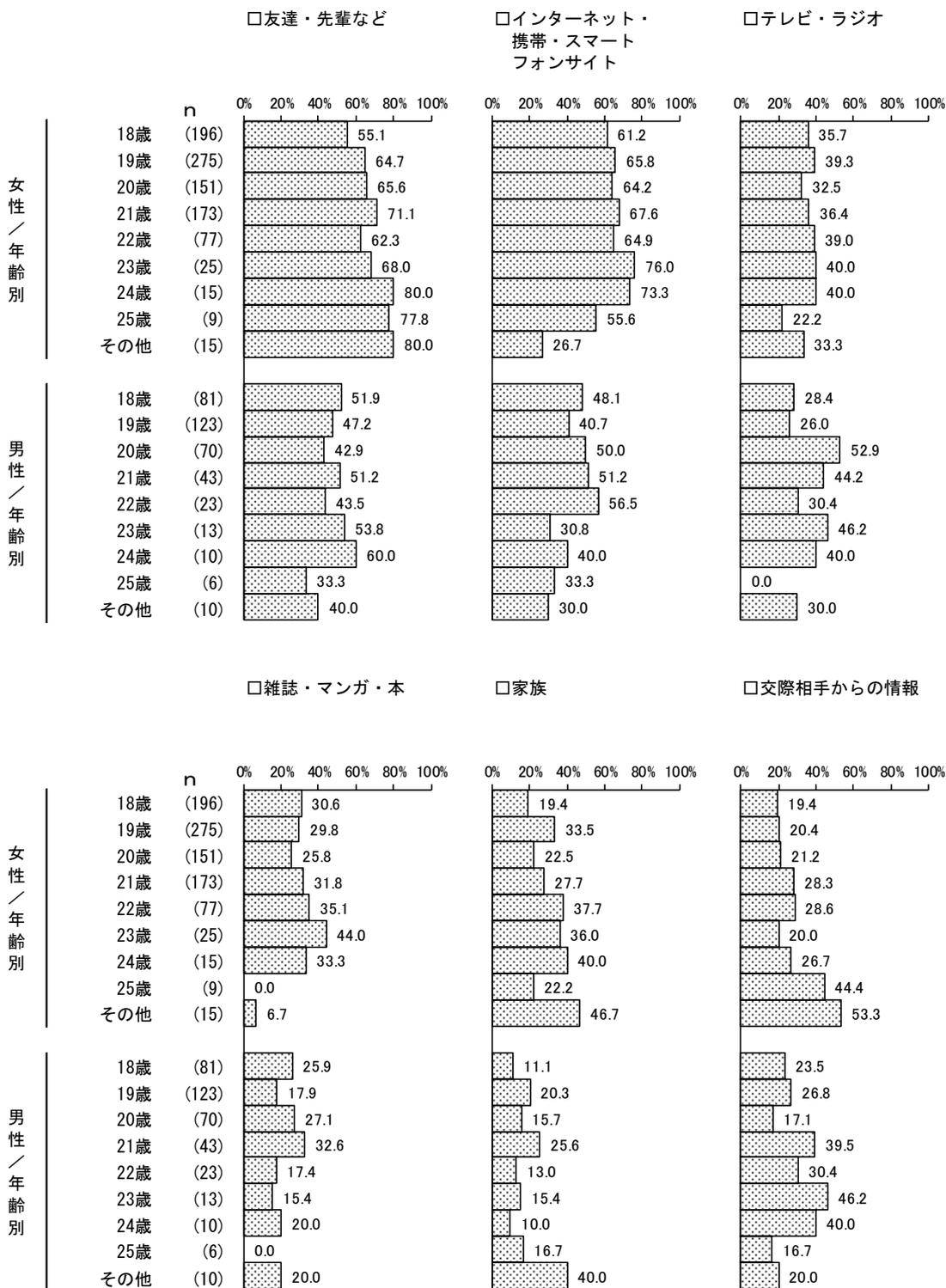
表－12 恋愛などに参考にするもの（性別）



性年齢別にみると、ややばらつきがあるものの、女性では年齢が上がるに従い「友達・先輩など」が高まる傾向が見られる。(図表-13)

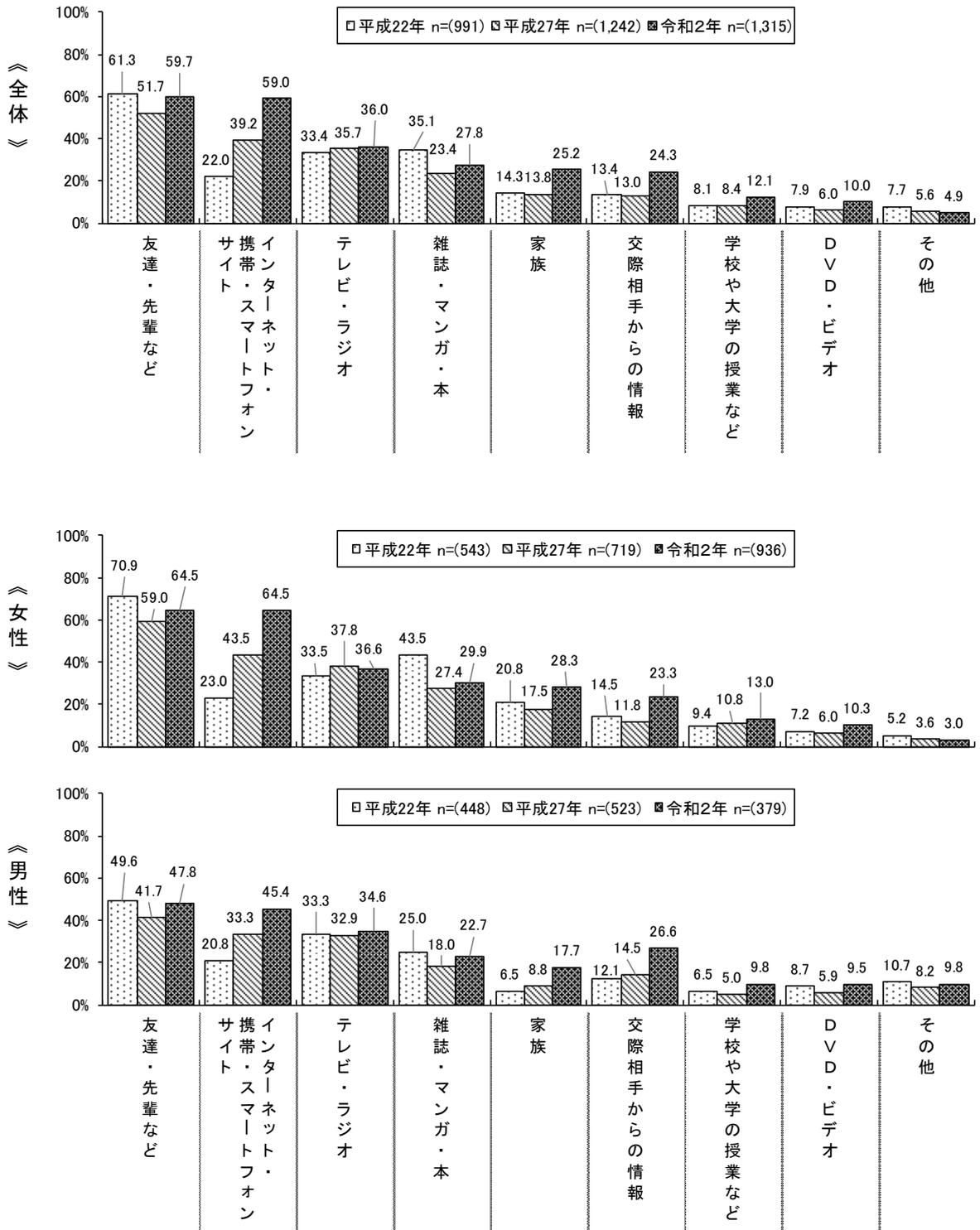
図表-13 恋愛などに参考にするもの(性年齢別)

<上位6項目>



時系列比較では、「インターネット・携帯・スマートフォンサイト」は、全体では平成27年から19.8ポイント増加しており、「家族」、「交際相手からの情報」でも、それぞれ11ポイント程度の増加が見られる。また、性別でみても、全体とほぼ同様の傾向が見られる。(図表-14)

図表-14 恋愛などに参考にするもの(時系列比較)



4. デートDVに該当すること

- ◆「相手が何を言っても無視し続ける」、「携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする」が6割台前半に留まる

問6 彼（彼女）からの行為で、あなたが「デートDV」にあたると思うことは次のどれですか。（いくつでも）

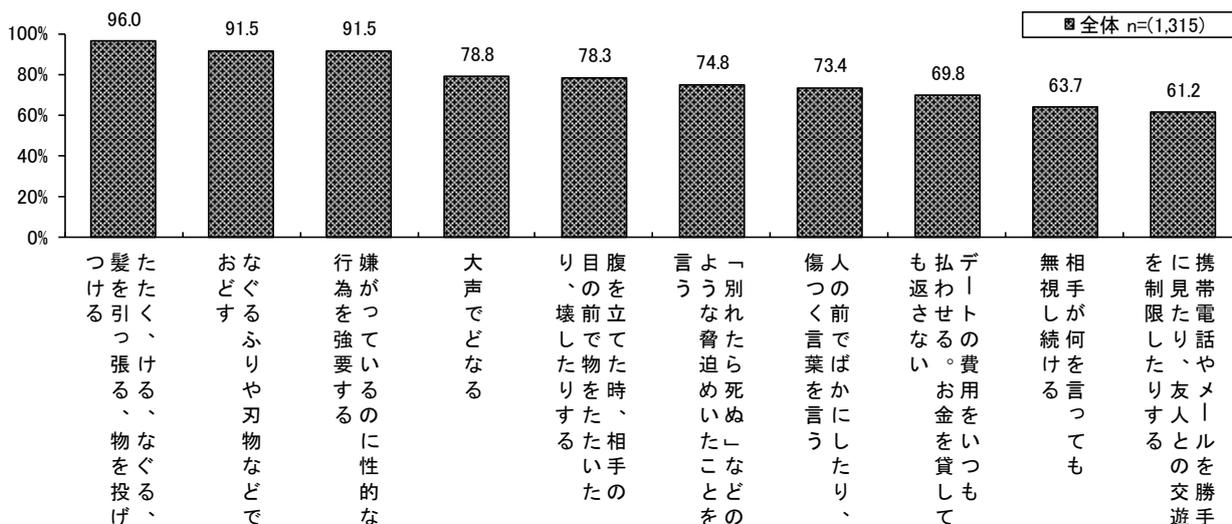
デートDVに該当することでは、「たたく、ける、なぐる、髪を引っ張る、物を投げつける」（96.0%）、「なぐるふりや刃物などでおどす」、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」（ともに91.5%）が9割台であるのに対し、「相手が何を言っても無視し続ける」、「携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする」が6割台前半に留まっており、身体的暴行や性的強要に該当する項目に比べ心理的攻撃に該当する項目の割合が相対的に低めとなっている。

（図表－15）

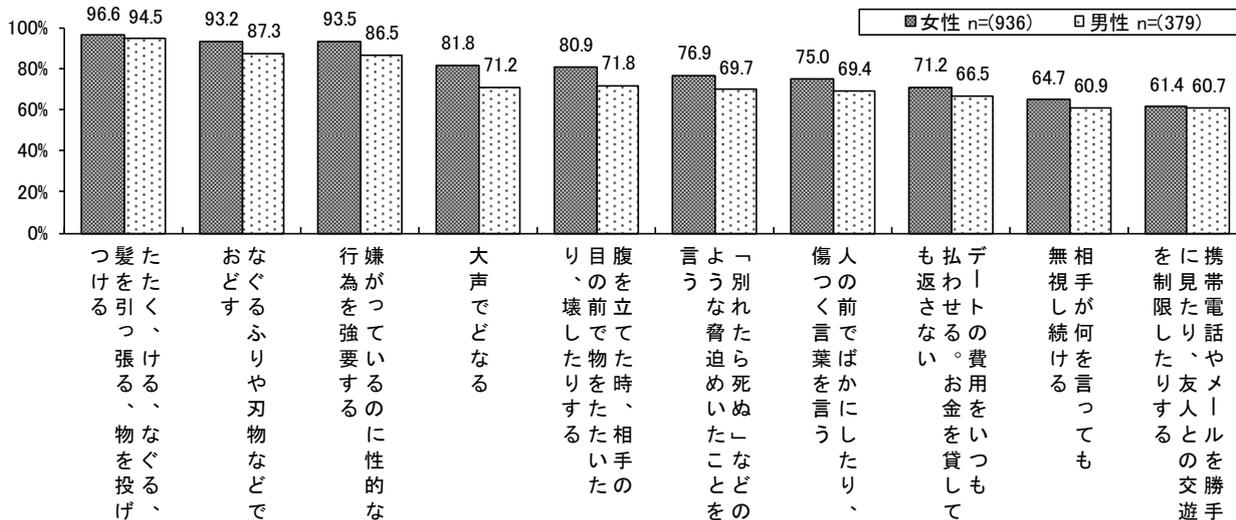
性別にみると、すべての項目で男性に比べ女性の回答割合が高く、特に「大声でどなる」、「腹を立てた時、相手の目の前で物をたたいたり、壊したりする」、「『別れたら死ぬ』などの脅迫めいたことを言う」、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」で差が大きくなっている。

（図表－16）

図表－15 デートDVに該当すること（全体）

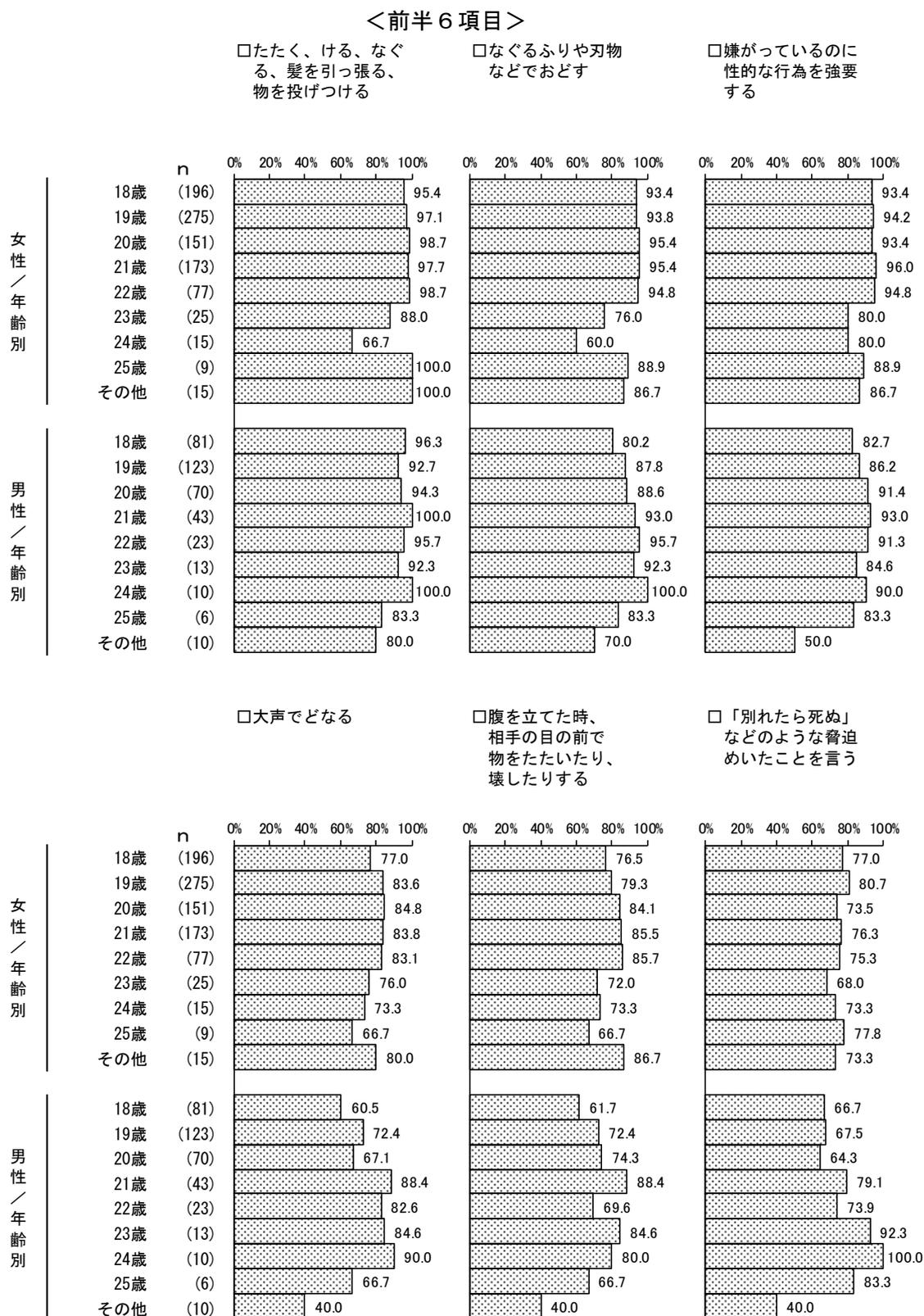


図表－16 デートDVに該当すること（性別）



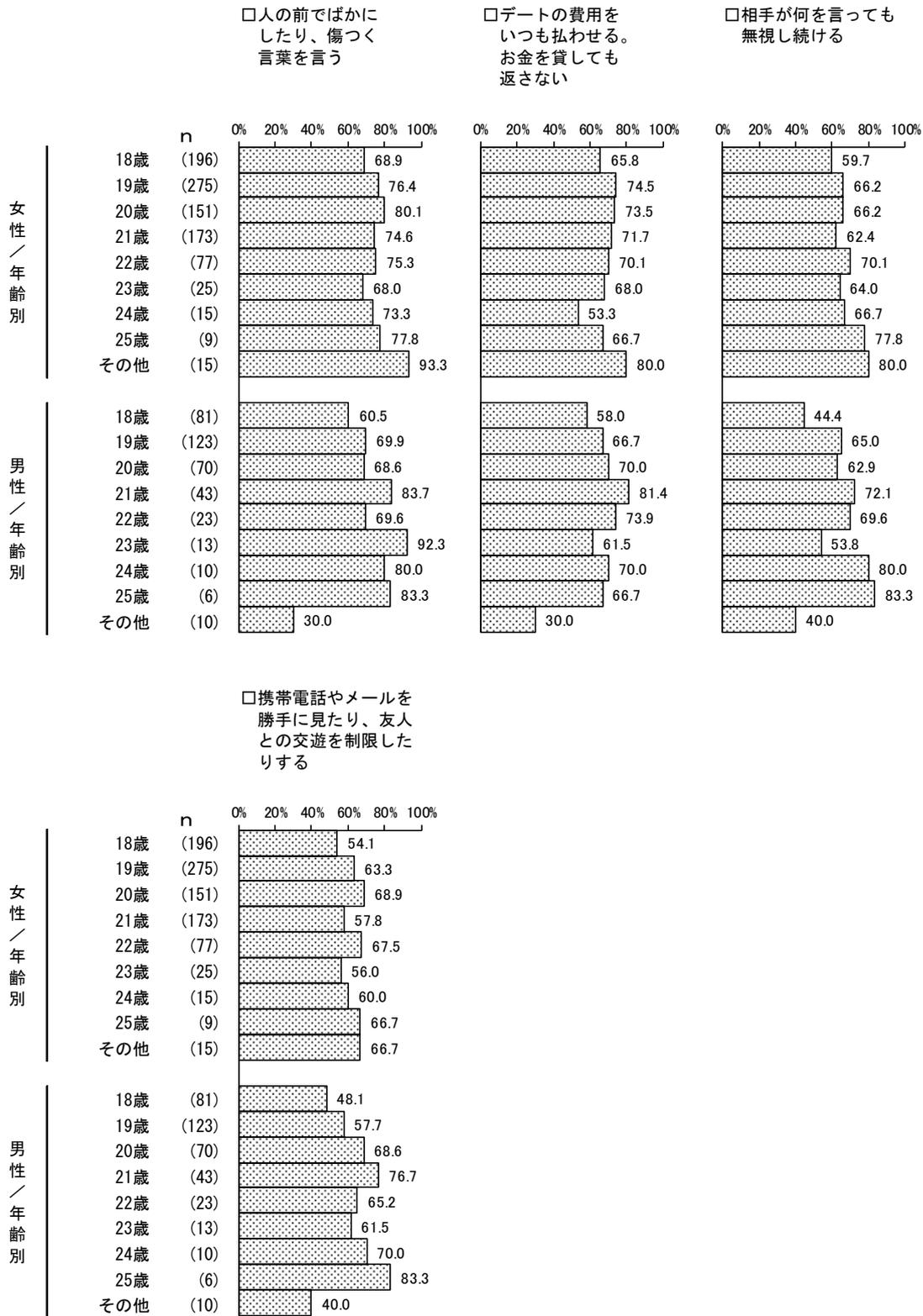
性年齢別にみると、「大声でどなる」、「腹を立てた時、相手の目の前で物をたたいたり、壊したりする」において、男性18歳の回答割合が他の年代に比べ低い傾向が見られる。(図表-17)

図表-17 デートDVに該当すること（性年齢別）



性年齢別にみると、「人の前でばかにしたり、傷つく言葉を使う」、「相手が何を言っても無視し続ける」、「携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする」において、男性18歳の回答割合が他の年代に比べ低い傾向が見られる。(図表-18)

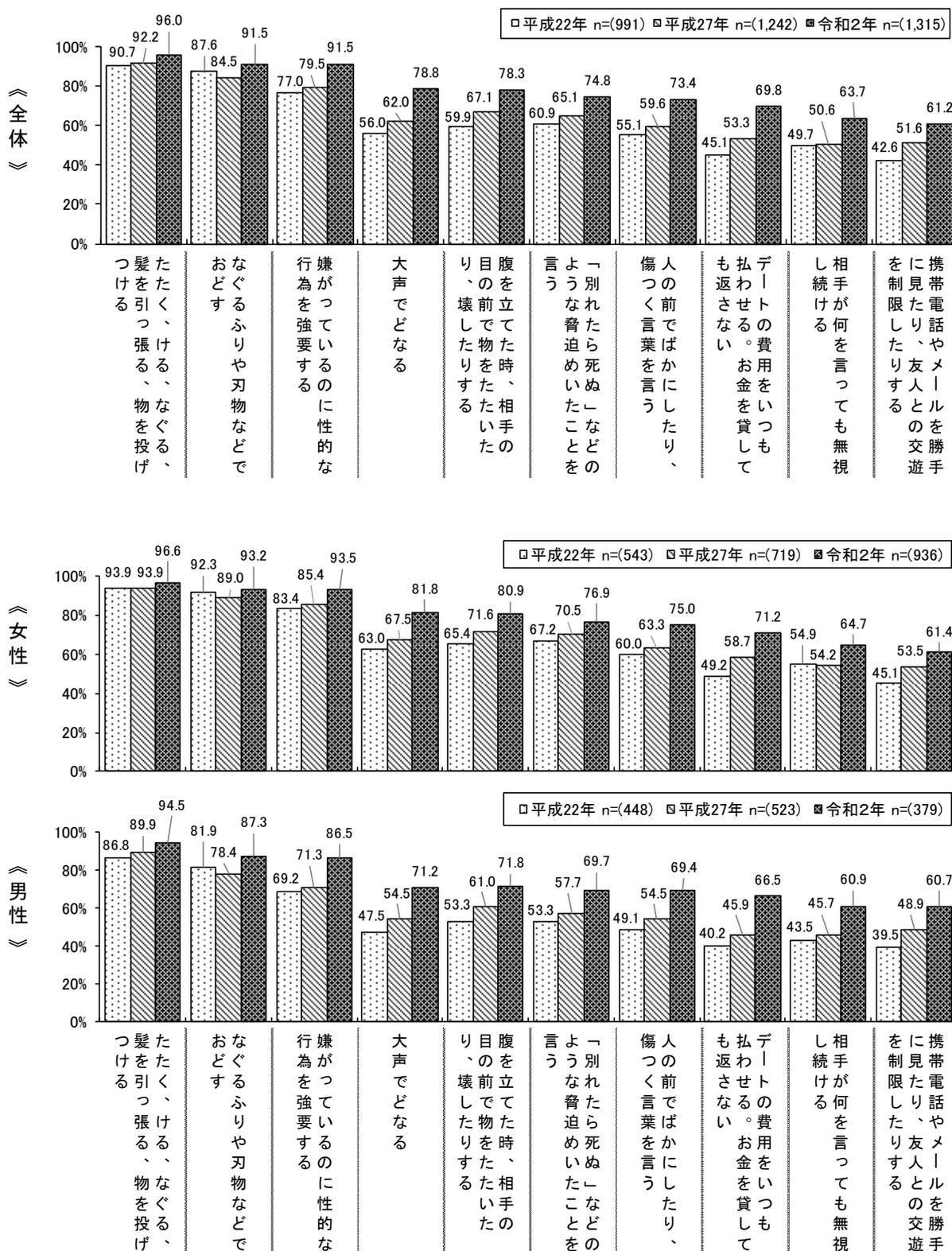
図表-18 デートDVに該当すること（性年齢別）
 <後半4項目>



時系列比較では、平成27年に比べてすべての項目で増加しており、特に「大声でどなる」、「デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない」で増加幅が大きくなっている。

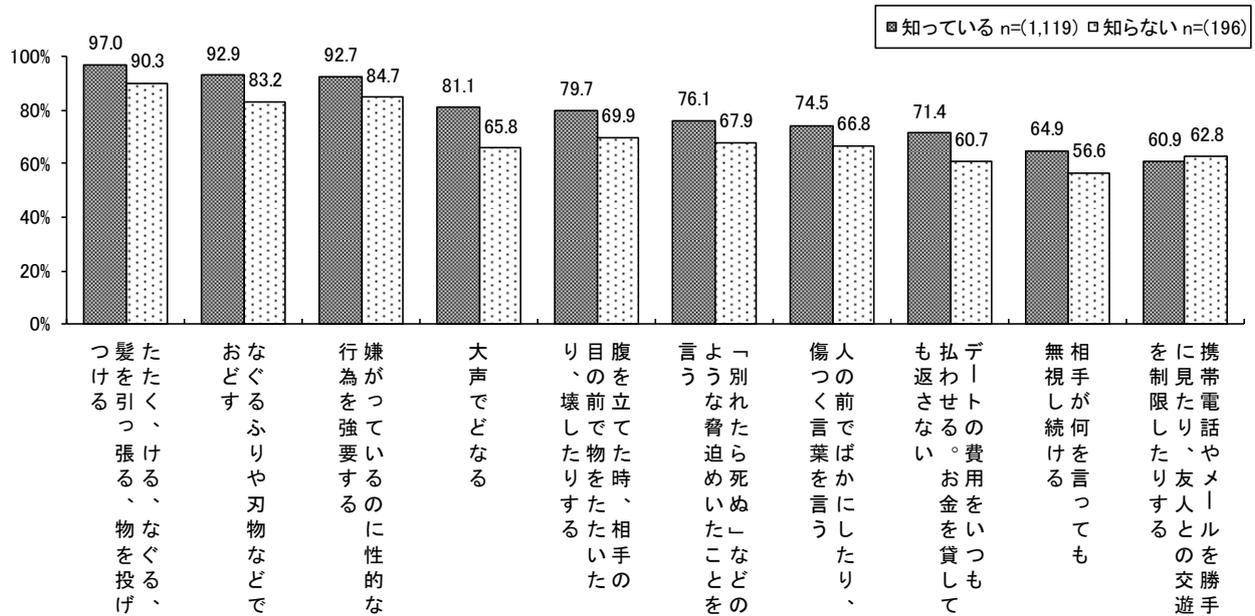
性別でみると、女性では「大声でどなる」、男性では「デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない」の平成27年からの増加幅が、それぞれ最も大きくなっている。(図表-19)

図表-19 デートDVに該当すること (時系列比較)



DV認知別でみると、「携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする」を除くすべての項目で、DVを知っているとした人の回答割合が知らないとした人を上回っている。また、「大声でどなる」でその差が最も大きくなっている。(図表-20)

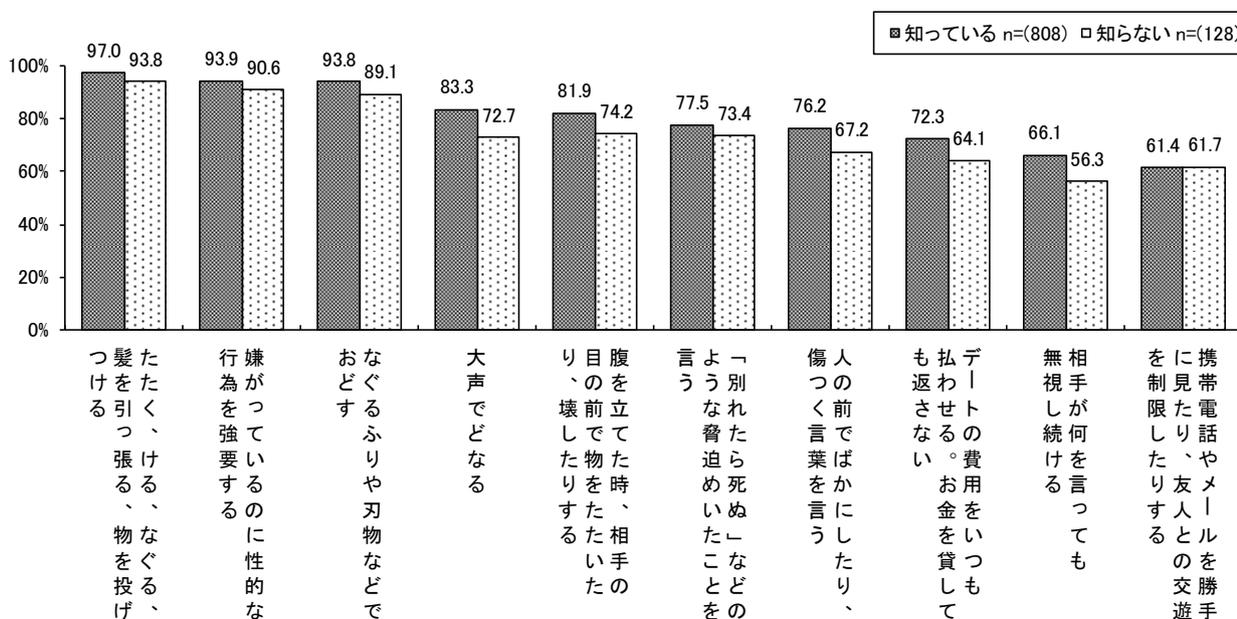
図表-20 デートDVに該当すること (DV認知別/全体)



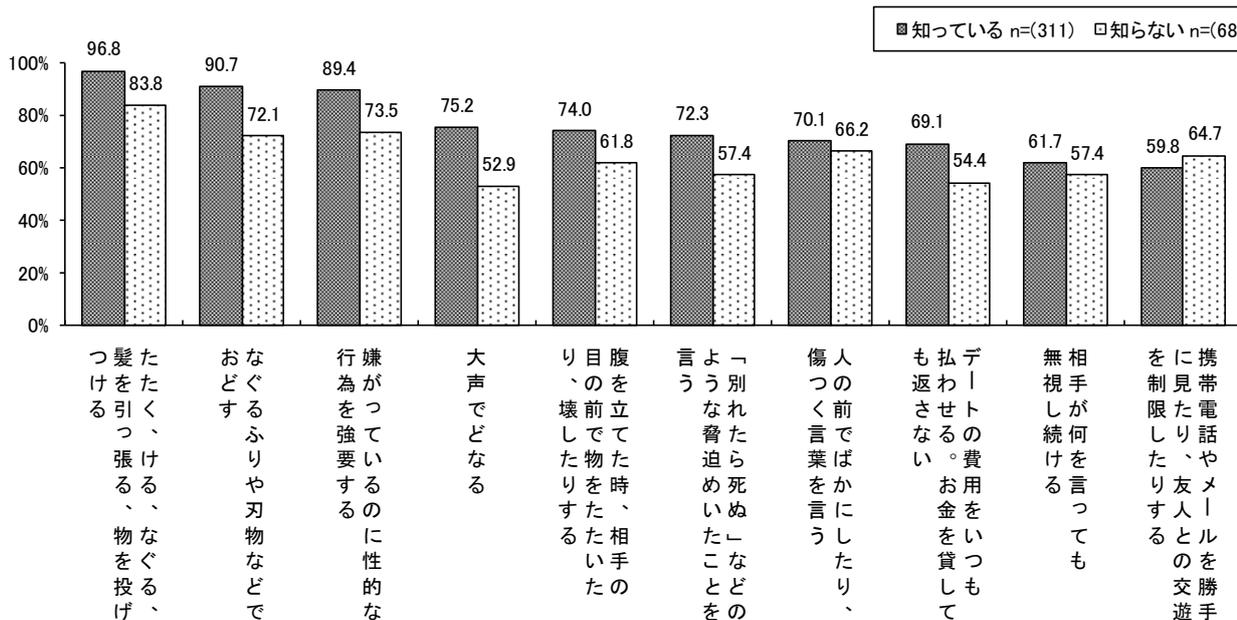
DV認知別を性別でみると、全体の傾向と同様に、「携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする」を除くすべての項目で、DVを知っているとした人の回答割合が知らないとした人を上回っている。また、男女ともに「大声でどなる」でその差が最も大きくなっている。(図表-21)

図表-21 デートDVに該当すること (DV認知別/性別)

《女性》

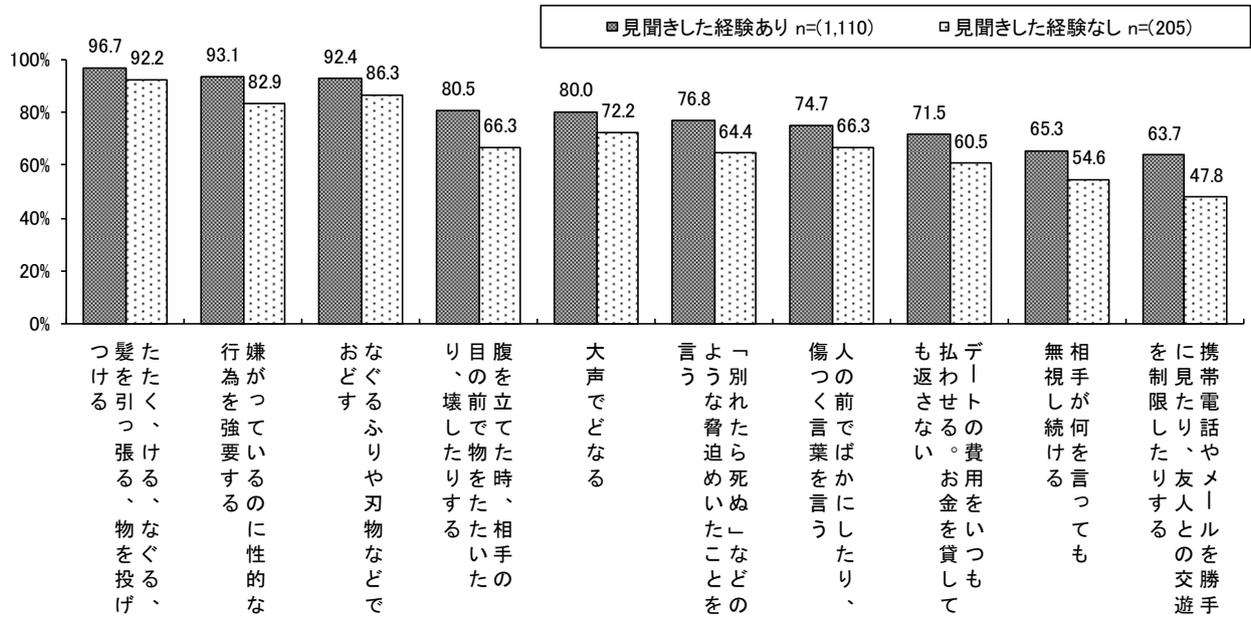


《男性》



デートDV認知別で見ると、すべての項目で、デートDVを見聞きしたことがあるとした人の回答割合が見聞きしたことがないとした人を上回っている。また、「携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする」でその差が最も大きくなっている。(図表-22)

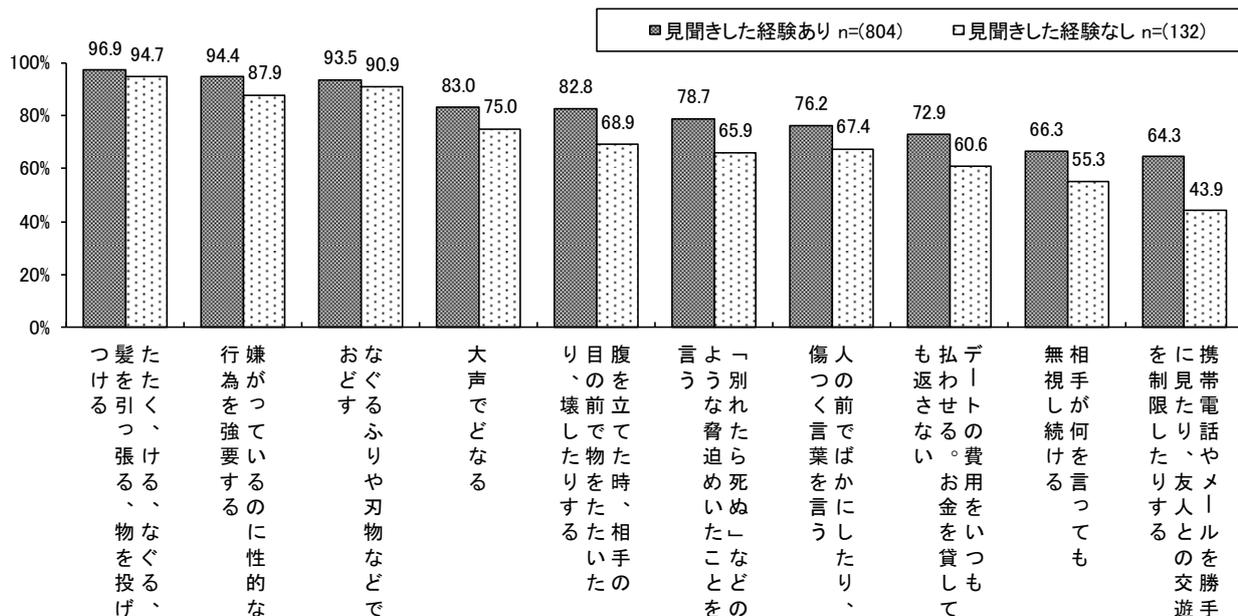
図表-22 デートDVに該当すること（デートDV認知別/全体）



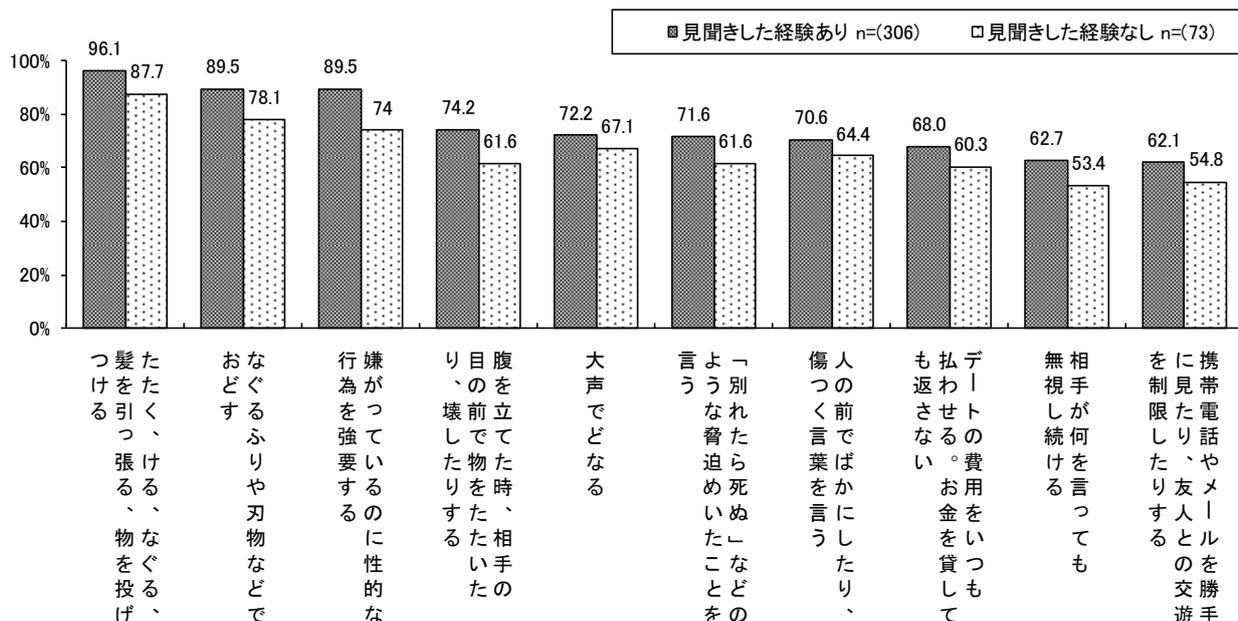
デートDV認知別を性別でみると、全体の傾向と同様に、すべての項目で、デートDVを見聞きしたことがあるとした人の回答割合が見聞きしたことがないとした人を上回っている。また、女性の「携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする」と、男性の「嫌がっているのに性的な行為を強要する」において、デートDVを見聞きしたことがあるとした人と見聞きしたことがないとした人の回答割合の差が、それぞれ最も大きくなっている。(図表-23)

図表-23 デートDVに該当すること(デートDV認知別/性別)

《女性》



《男性》



「被害経験あり（計）」とした189人について、回答項目数をカウントした結果が下図である。

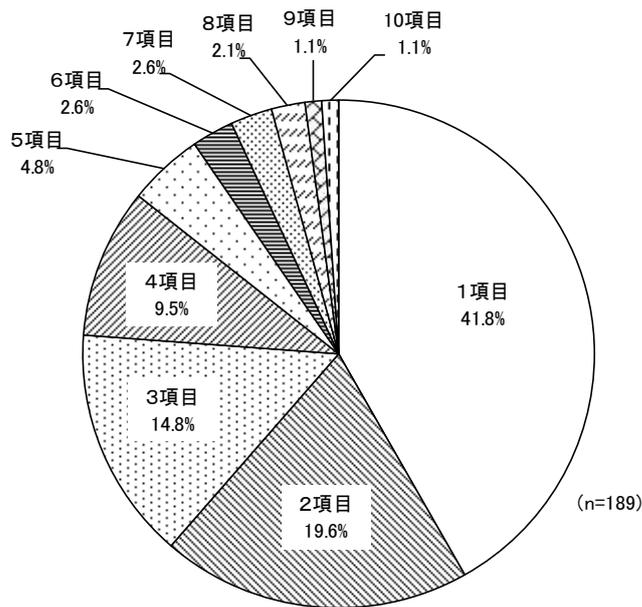
(図表-28) (図表-29)

「1項目」が41.8%と最も多く、次いで「2項目」(19.6%)、「3項目」(14.8%)となっている。また、「2項目以上」の被害に遭っている人が約6割を占めている。(図表-28)

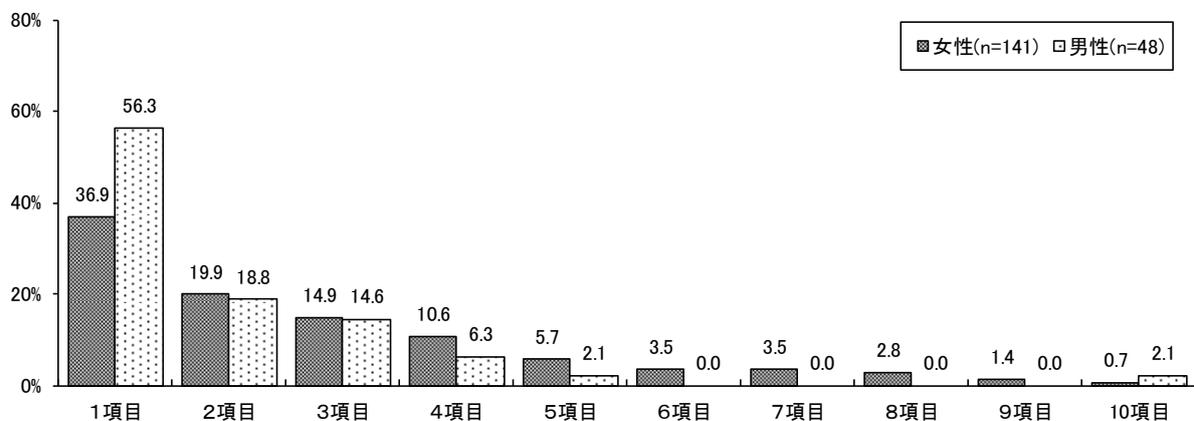
性別にみると、男性では「1項目」(56.3%)が5割台半ばとなっている一方で、女性では「1項目」(36.9%)が3割台半ばと、「2項目以上」の割合が男性に比べ2割程度高くなっている。

(図表-29)

図表-28 被害経験（被害行為数／全体）



図表-29 被害経験（被害行為数／性別）



6. 被害に対する対応

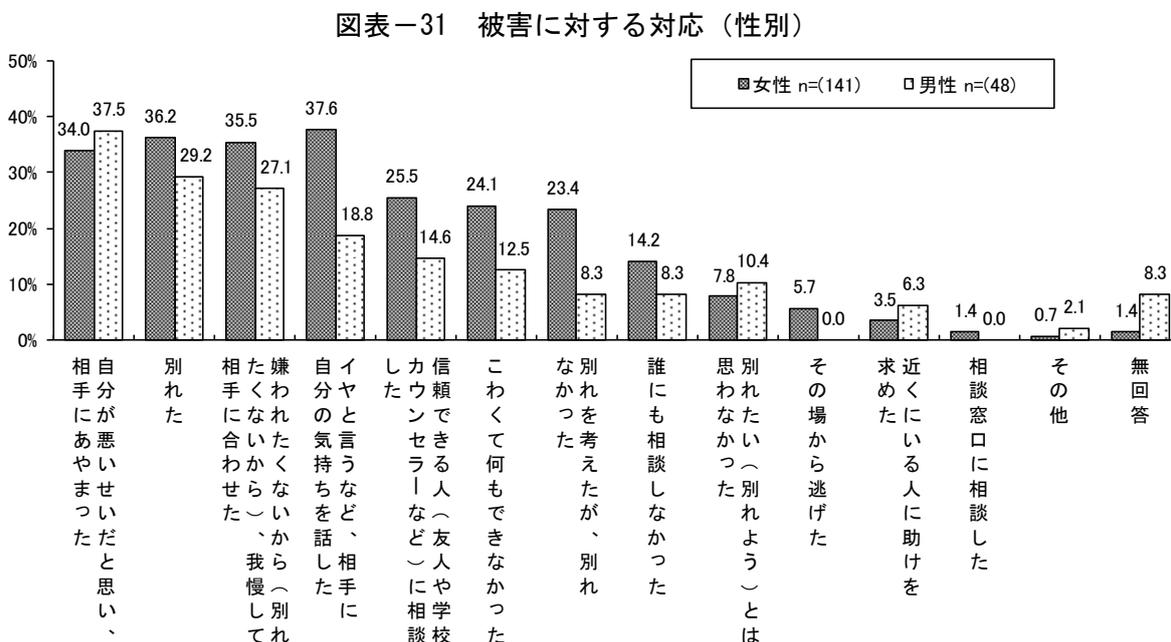
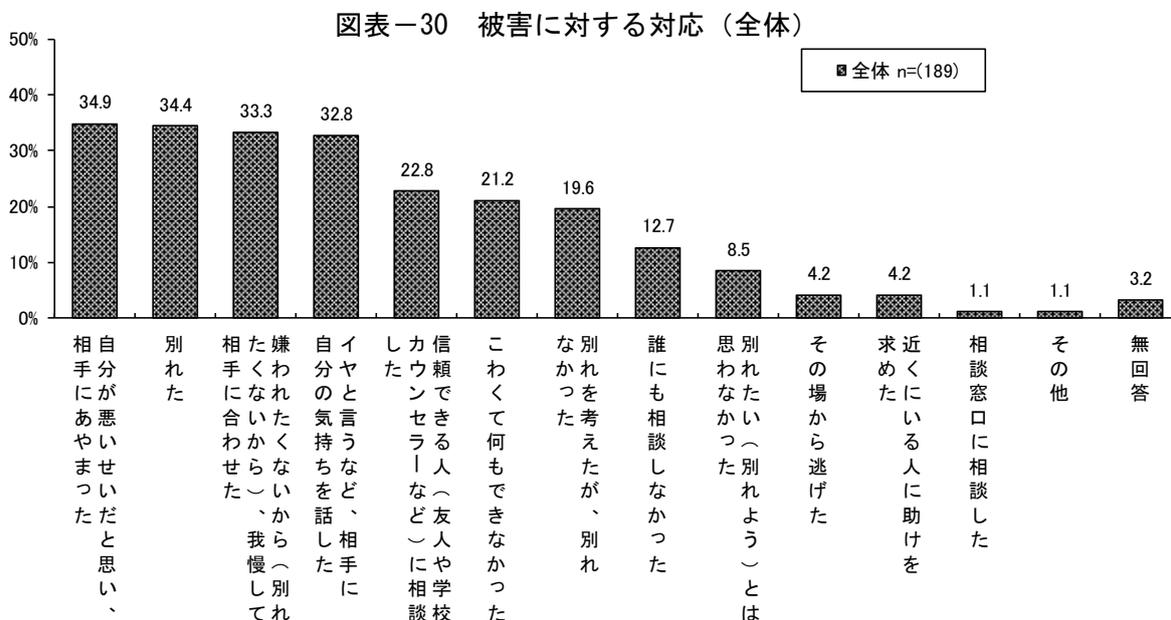
- ◆「相手にあやまった」、「別れた」、「我慢して相手に合わせた」、「相手に自分の気持ちを話した」がそれぞれ3割台

問7-2 その時あなたはどう感じ、どう対応しましたか。(あなたの気持ちや対応に近いものを3つまで)

被害に対する対応では、「自分が悪いせいだと思い、相手にあやまった」が34.9%と最も高く、次いで、「別れた」(34.4%)、「嫌われたくないから(別れたくないから)、我慢して相手に合わせた」(33.3%)、「イヤと言うなど、相手に自分の気持ちを話した」(32.8%)となっている。

(図表-30)

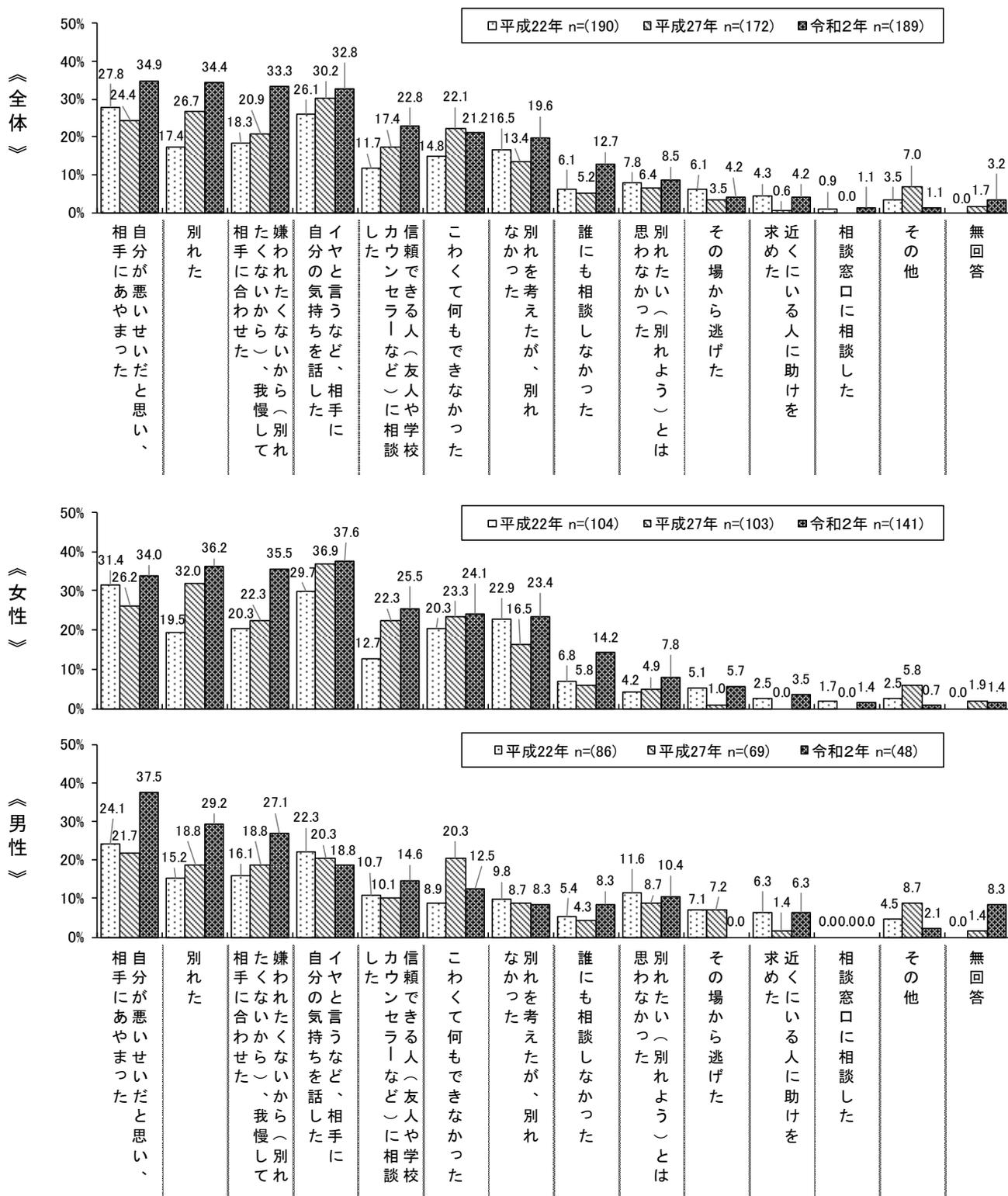
性別にみると、女性では「イヤと言うなど、相手に自分の気持ちを話した」が最も高くなっている一方で、男性では「自分が悪いせいだと思い、相手にあやまった」が最も高く、意識や対応に差が見られる。(図表-31)



時系列比較では、平成27年に比べて「嫌われたくないから（別れたくないから）、我慢して相手に合わせた」、「自分が悪いせいだと思い、相手にあやまった」の増加幅が大きくなっている。

また、性別でみると、女性では「嫌われたくないから（別れたくないから）、我慢して相手に合わせた」で、男性では「自分が悪いせいだと思い、相手にあやまった」、「別れた」でそれぞれ増加幅が最も大きくなっている。（図表－32）

図表－32 被害に対する対応（時系列比較）



7. 加害経験

◆加害経験ありは全体の7.4%

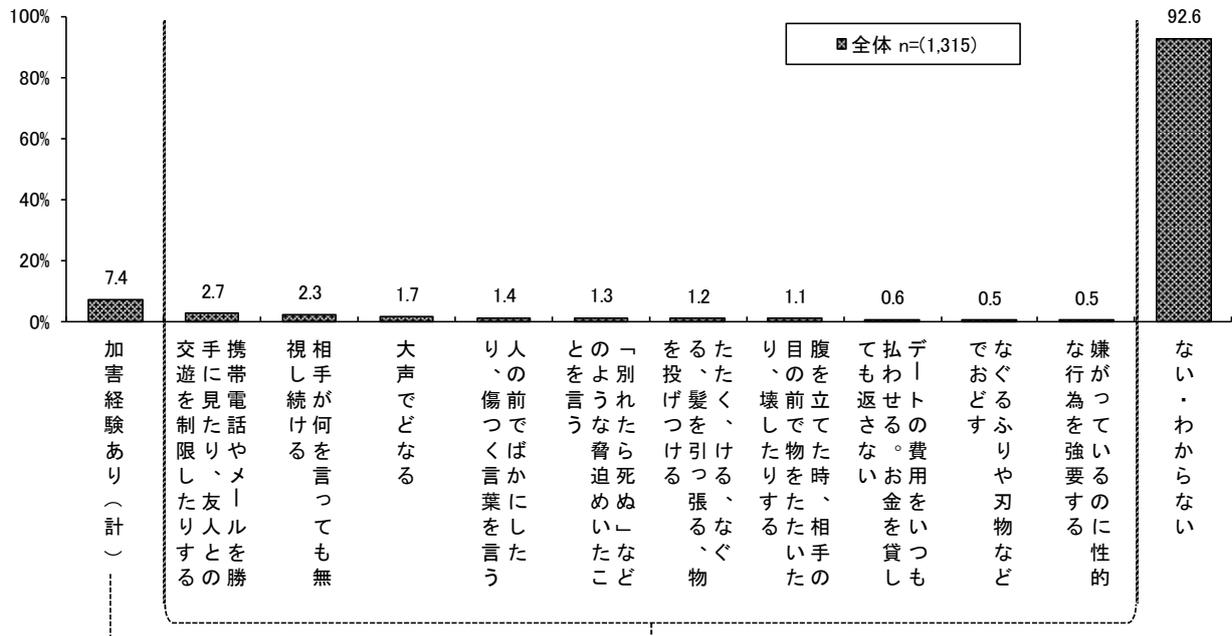
問8-1 あなたは、彼（彼女）へ以下のような行為をした（したかもしれないと思う）ことがありますか。（いくつでも）

デートDVの加害経験では、「加害経験あり（計）」は、7.4%となっている。

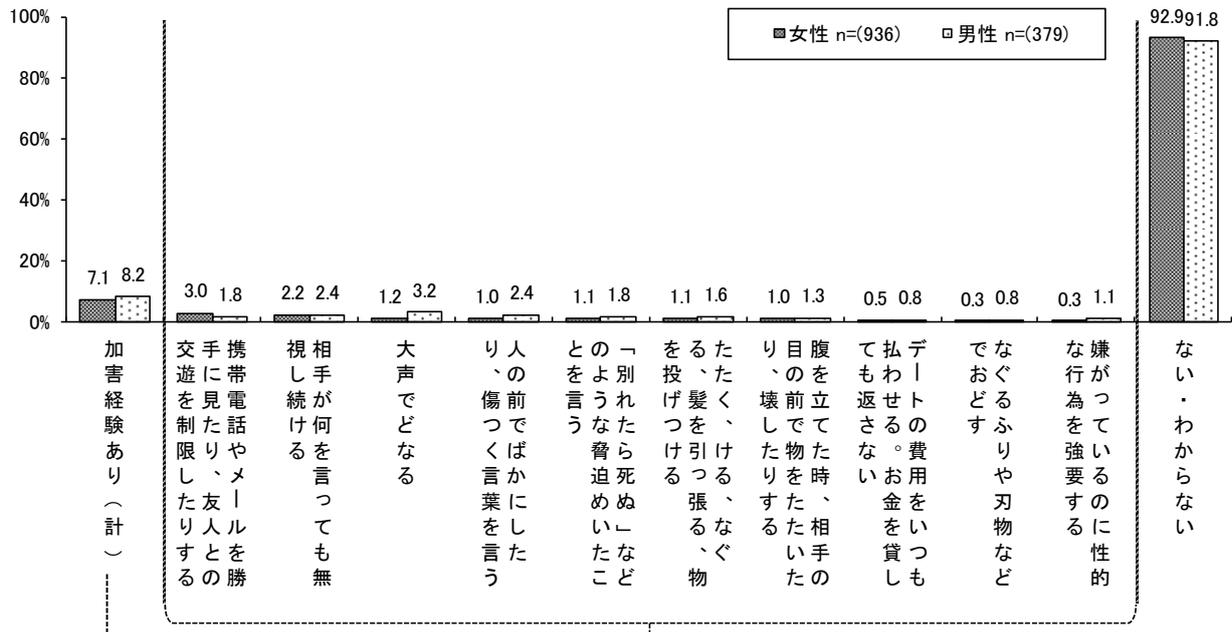
また、詳細をみると「携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする」が2.7%と最も高く、「相手が何を言っても無視し続ける」（2.3%）が次いでいる。（図表-33）

性別にみて、特に大きな傾向の違いは見られない。（図表-34）

図表-33 加害経験（全体）

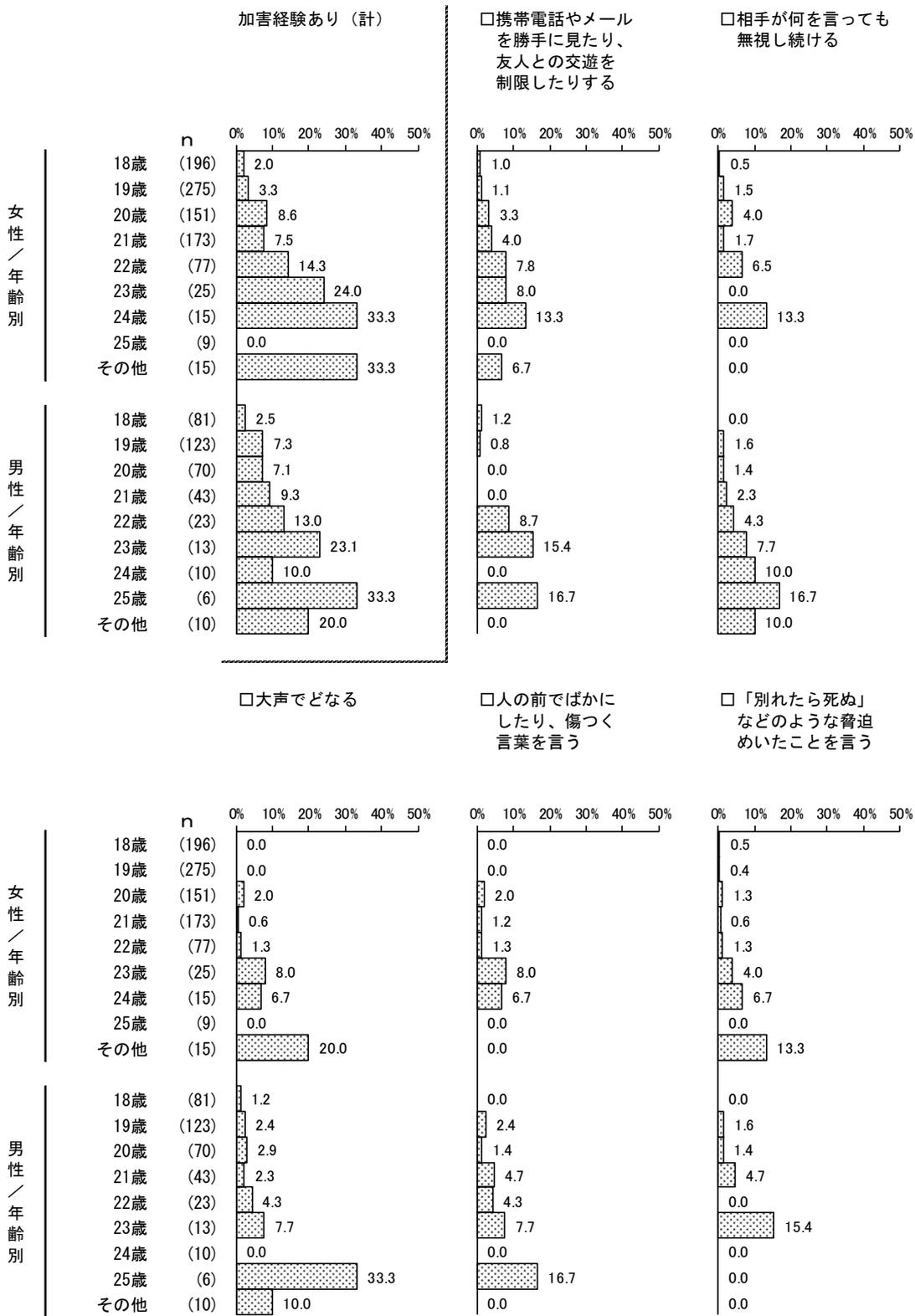


図表-34 加害経験（性別）



性年齢別でみると、「加害経験あり（計）」は、女性では22～24歳で1割以上となっており、男性で22～25歳で1割以上となっている。（図表－35）

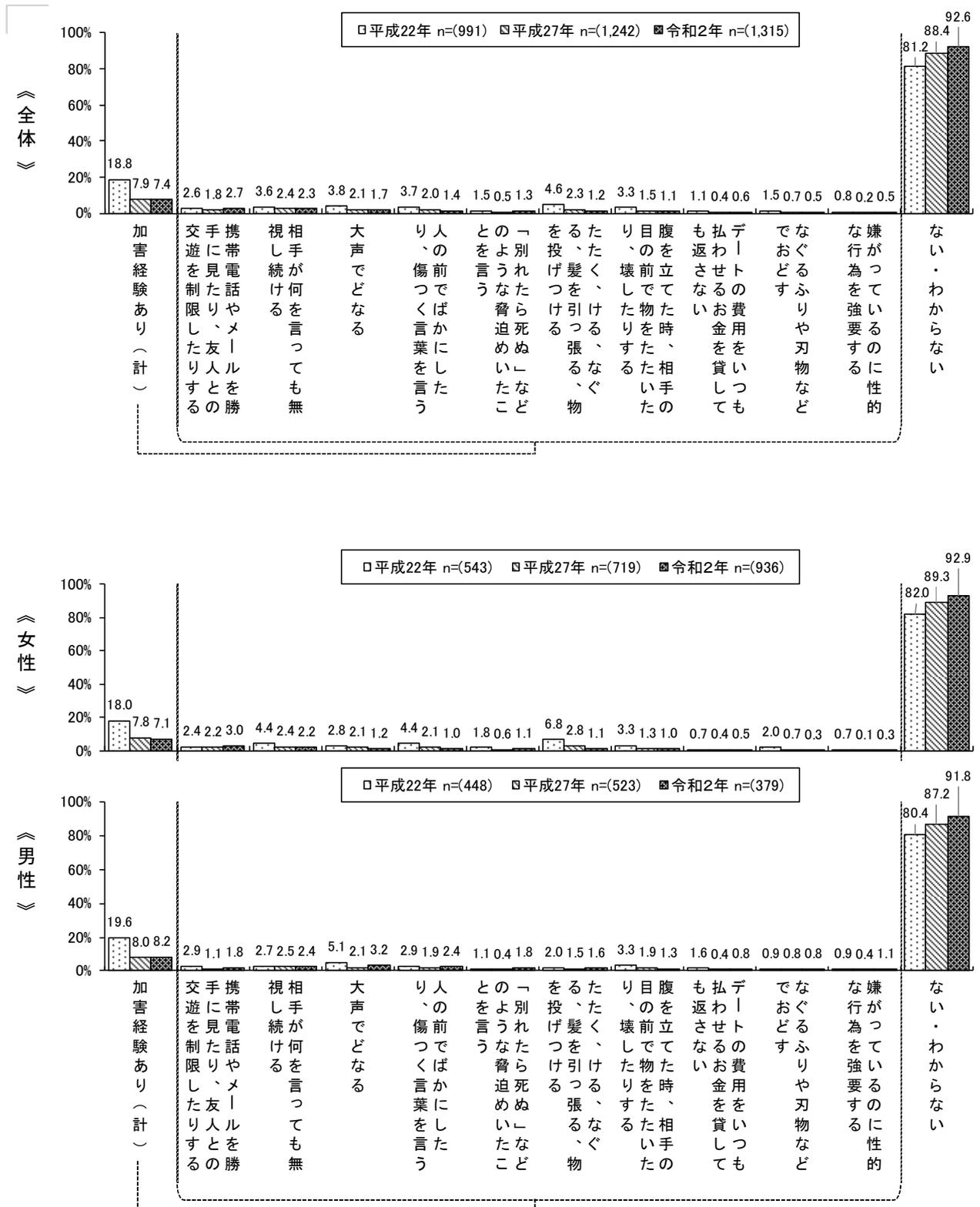
図表－35 加害経験（性年齢別）
 <加害経験あり（計）、上位5項目>



時系列比較では、全体、男女のいずれでも平成27年との大きな傾向の違いは見られない。

(図表-36)

図表-36 加害経験（時系列比較）



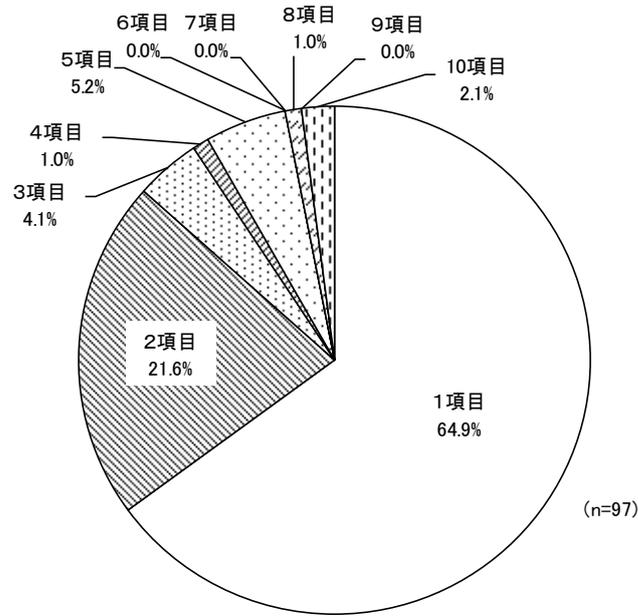
「加害経験あり（計）」とした97人について、回答項目数をカウントした結果が下図である。

(図表-37) (図表-38)

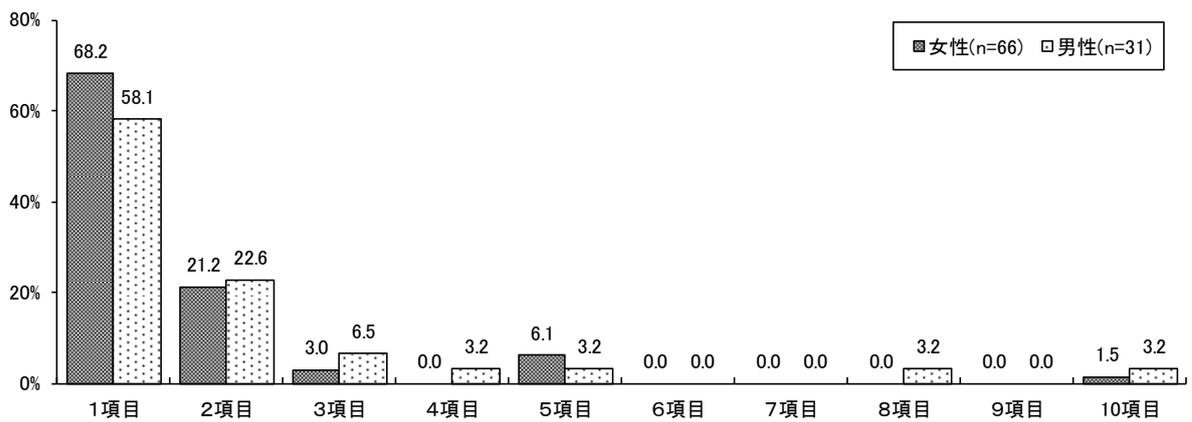
「1項目」が64.9%と最も多く、次いで「2項目」(21.6%)となっている。また、「2項目以上」の加害経験のある人が3割台半ばとなっている。(図表-37)

性別にみると、女性では「1項目」(68.2%)が約7割となっている一方で、男性では「1項目」(58.1%)が約6割と、「2項目以上」の割合が女性に比べ1割程度高くなっている。(図表-38)

図表-37 加害経験（加害行為数／全体）



図表-38 加害経験（加害行為数／性別）



8. 加害の理由

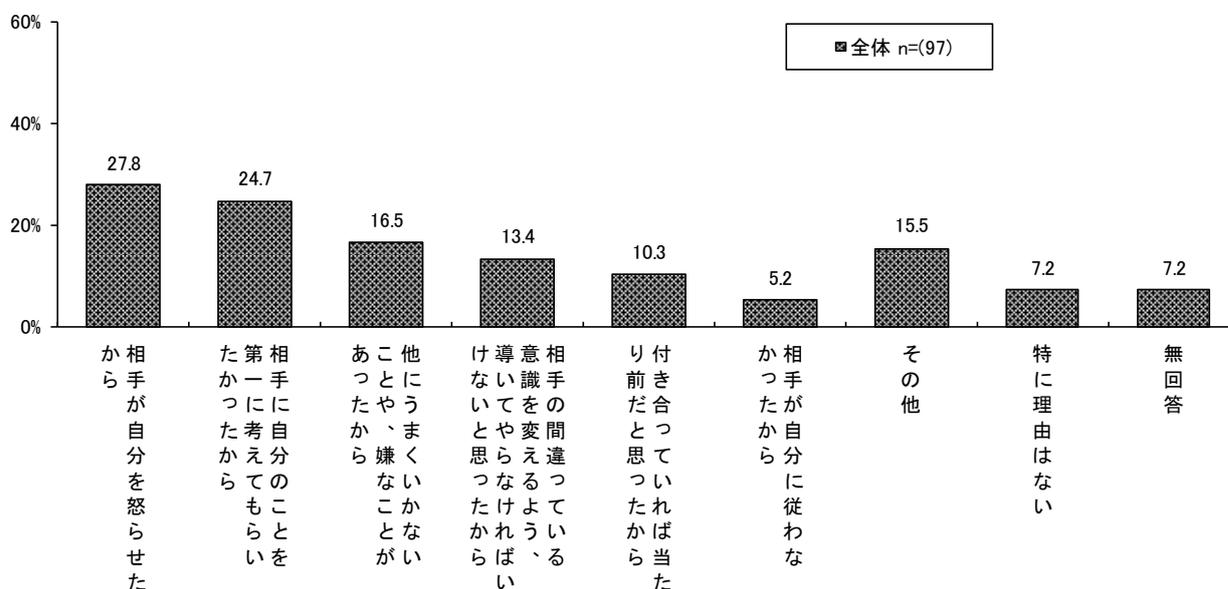
◆「相手が自分を怒らせたから」が約3割で最も高い

問8-2 なぜ上記のような行為をした（したかもしれない）と思いますか。（あなたの気持ちに近いものを3つまで）

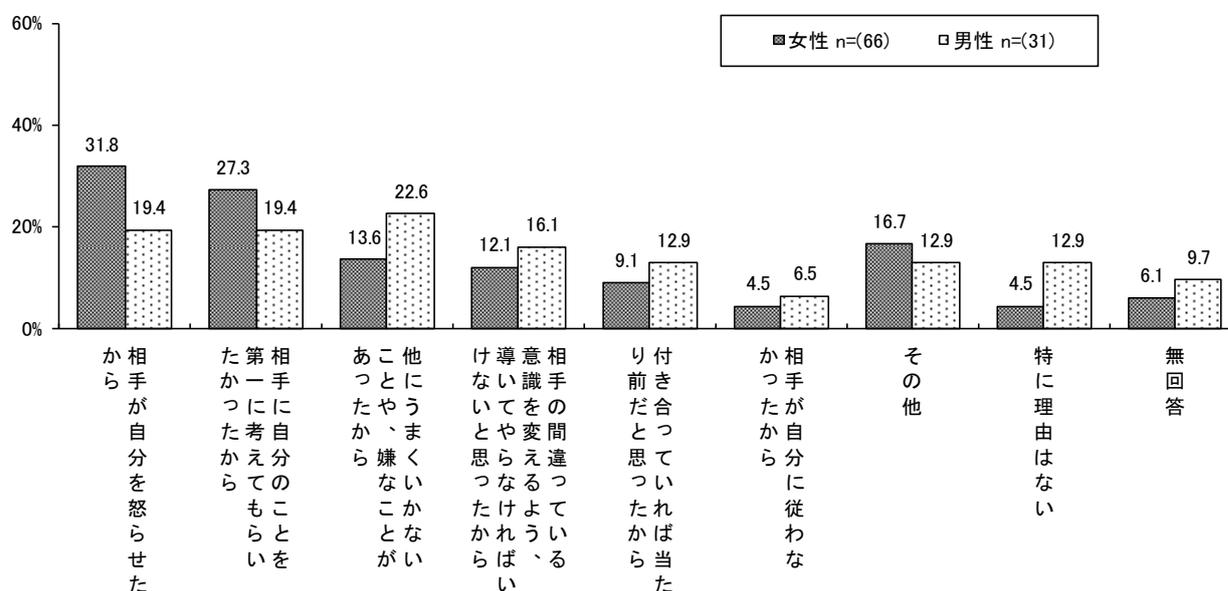
加害の理由では、「相手が自分を怒らせたから」が27.8%と最も高く、次いで「相手に自分のことを第一に考えてもらいたかったから」（24.7%）、「他にうまくいかないことや、嫌なことがあったから」（16.5%）となっている。（図表-39）

性別でみると、女性では「相手が自分を怒らせたから」が最も高くなっているのに対し、男性では「他にうまくいかないことや、嫌なことがあったから」が最も高くなっている。また、「男性」では「特に理由はない」の割合が女性に比べ高くなっていることから、行為に対する認識の違いがうかがえる。（図表-40）

図表-39 加害の理由（全体）



図表-40 加害の理由（性別）

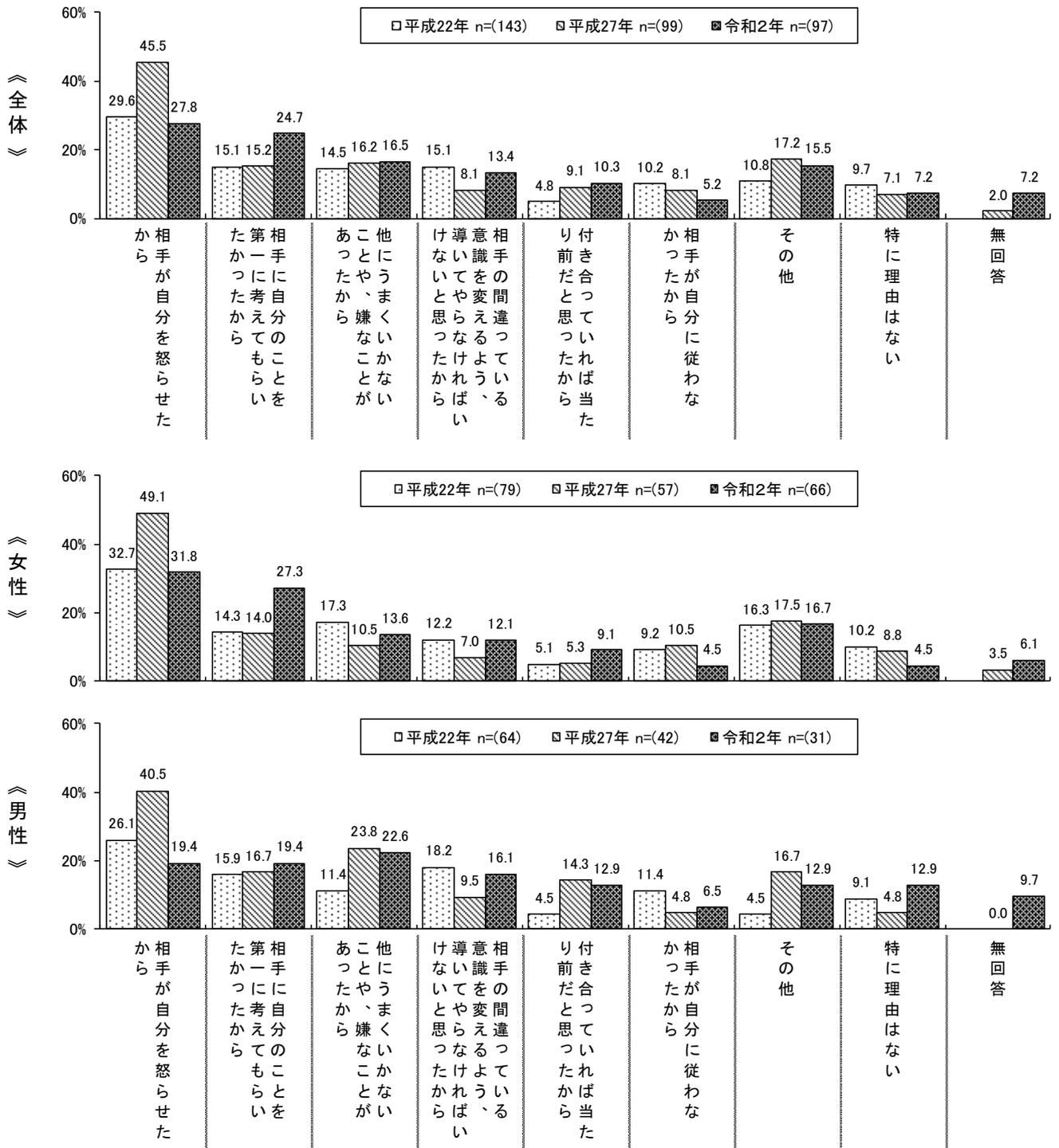


時系列比較では、平成27年に比べて「相手が自分を怒らせたから」の減少幅が大きくなっており、「相手に自分のことを第一に考えてもらいたかったから」の増加幅が大きくなっている。

また、性別でみると、男女とも「相手が自分を怒らせたから」の減少幅が大きくなっている。

(図表-41)

図表-41 加害の理由（時系列比較）



9. 家庭でのDV経験

◆家庭内で暴力等にさらされた経験ありは1割台半ば

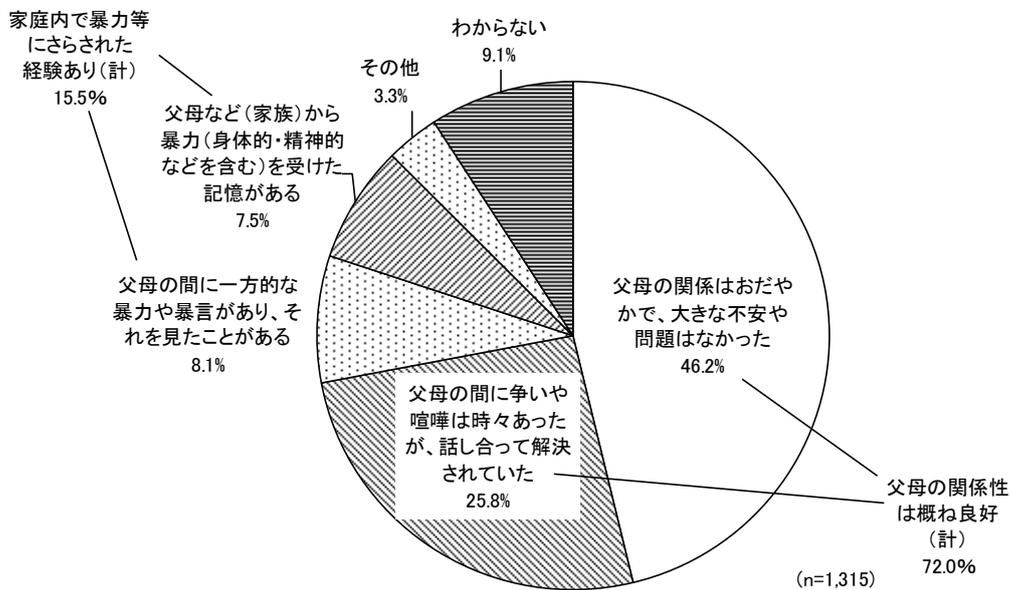
問9 あなたのご両親やご家族の関係に近いものはどれですか。(1つのみ)

家庭でのDV経験では、「父母の間に一方的な暴力や暴言があり、それを見たことがある」(8.1%)と「父母など(家族)から暴力(身体的・精神的などを含む)を受けた記憶がある」(7.5%)を合わせた「家庭内で暴力等にさらされた経験あり(計)」は15.5%となっている。

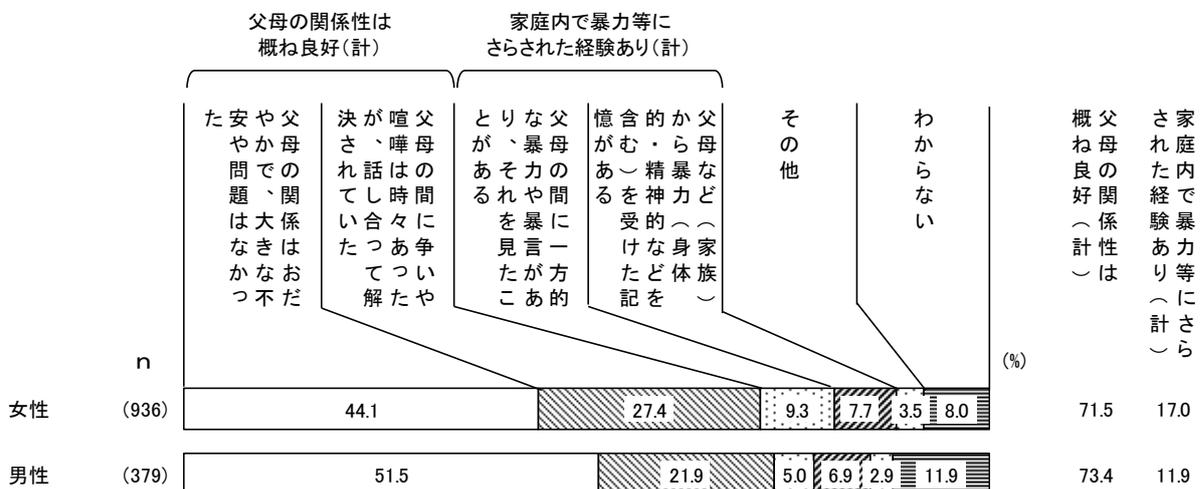
(図表-41)

性別でみると、「家庭内で暴力等にさらされた経験あり(計)」は、女性(17.0%)が男性(11.9%)に比べ6.1ポイント高くなっている。(図表-42)

図表-42 家庭でのDV経験(全体)

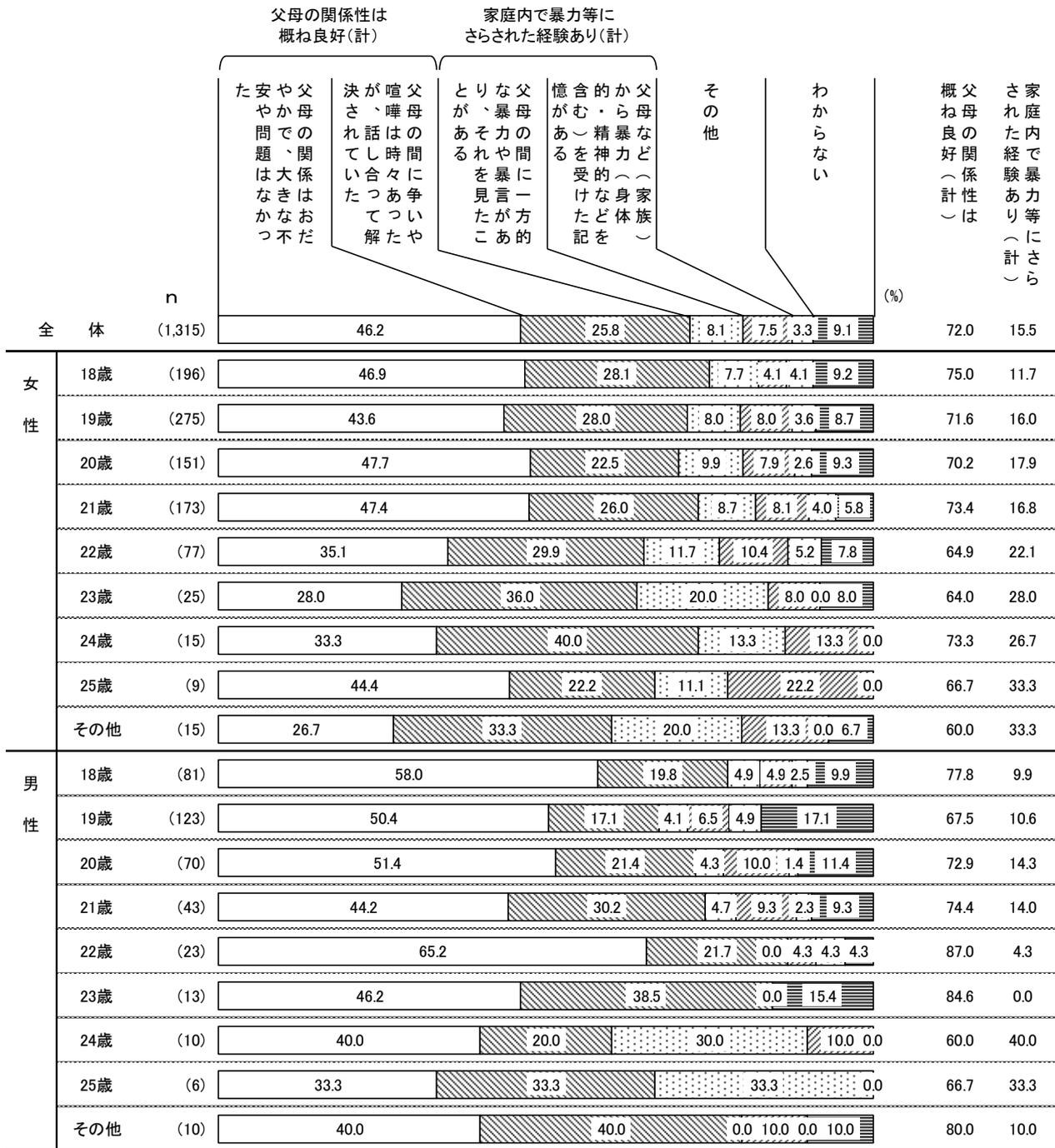


図表-43 家庭でのDV経験(性別)



性年齢別にみると、女性の22～25歳で「家庭内で暴力等にさらされた経験あり（計）」が2割以上と18～21歳に比べ高くなっている。（図表－44）

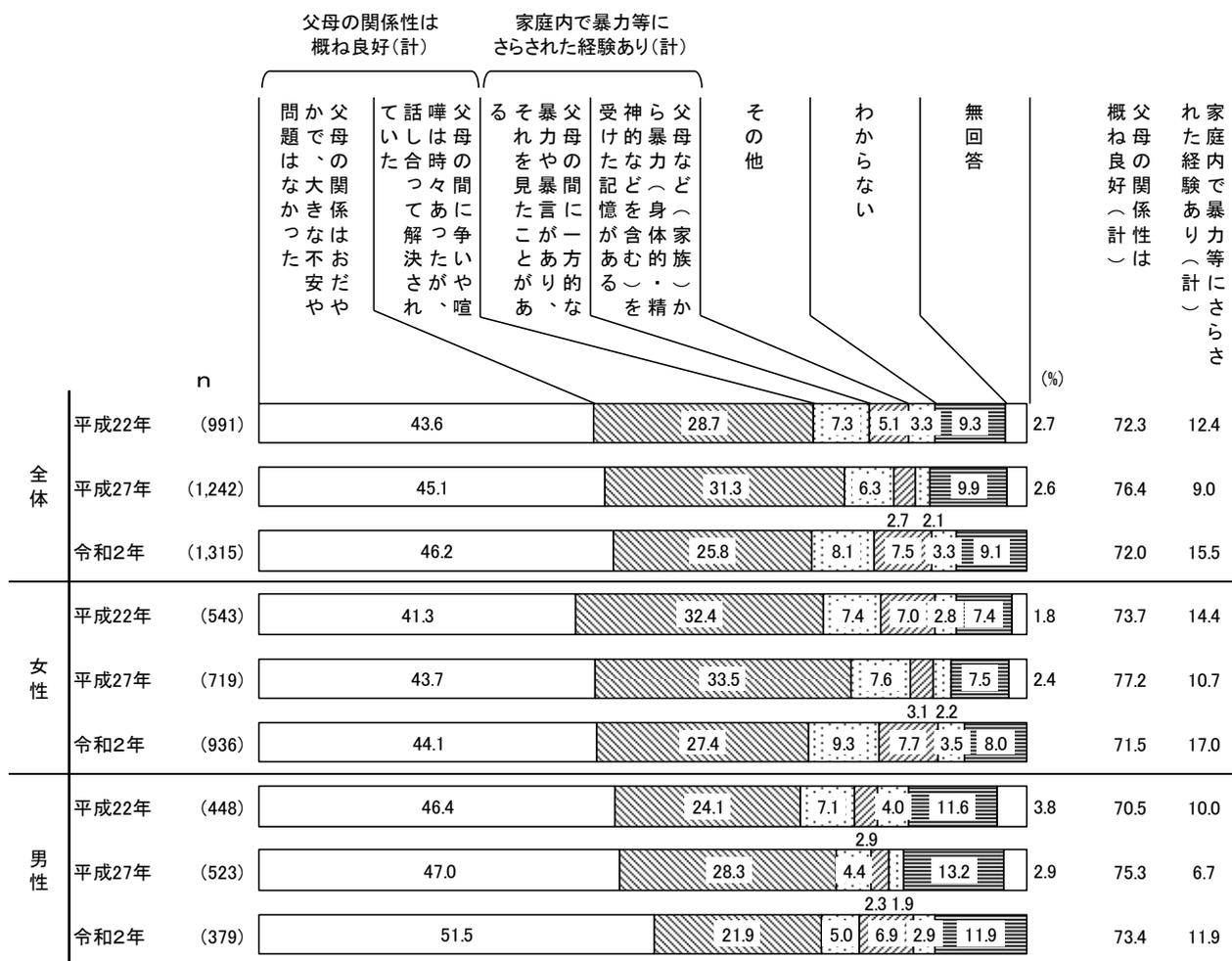
図表－44 家庭でのDV経験（性年齢別）



時系列比較では、「家庭内で暴力等にさらされた経験あり（計）」が平成27年に比べて6.5ポイント増加している。

また、性別で見ると、「家庭内で暴力等にさらされた経験あり（計）」が女性で6.3ポイント、男性で5.2ポイント、それぞれ増加している。（図表－45）

図表－45 家庭でのDV経験（時系列比較）



10. デートDV相談対応

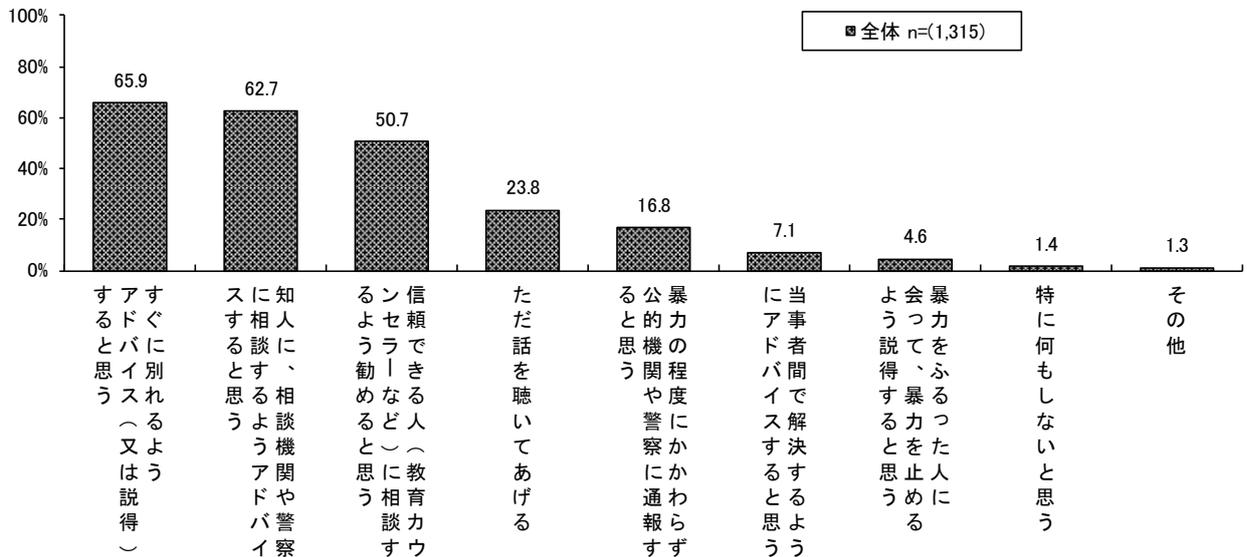
◆「すぐに別れるようアドバイス（又は説得）すると思う」が6割台半ばで最も高い

問10 問6に挙げたことは全て「デートDV」にあたると言われていますが、もし、あなたが知人から「デートDVを受けている」と相談された時は、どうしたいと思いますか。（いくつでも）

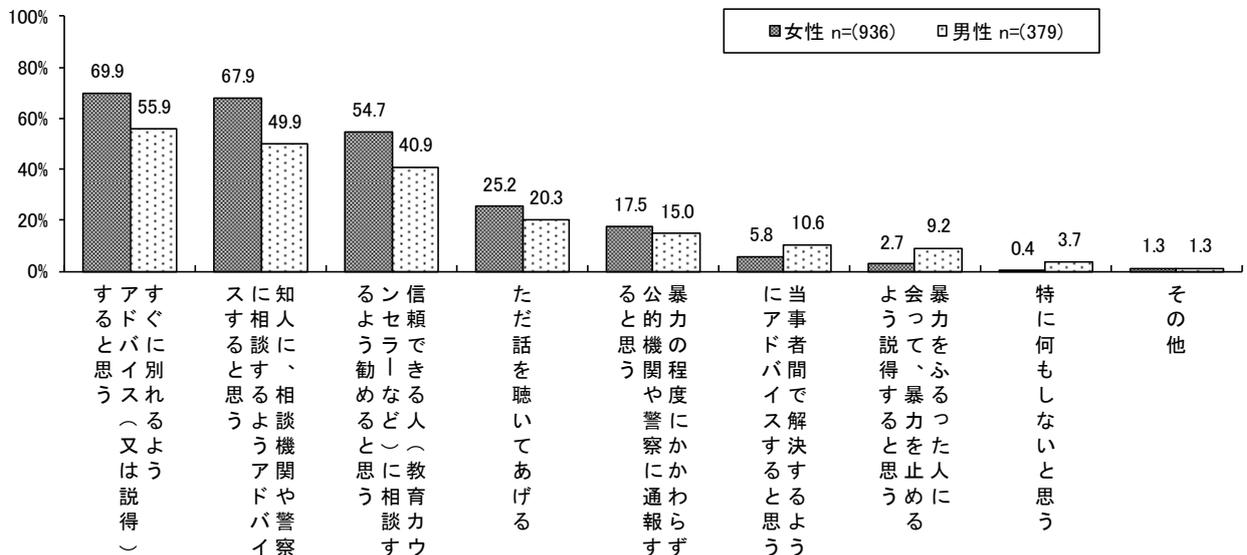
デートDV相談対応では、「すぐに別れるようアドバイス（又は説得）すると思う」が65.9%と最も高く、次いで「知人に、相談機関や警察に相談するようアドバイスすると思う」（62.7%）、「信頼できる人（教育カウンセラーなど）に相談するよう勧めると思う」（50.7%）となっている。（図表-46）

性別でみると、「すぐに別れるようアドバイス（又は説得）すると思う」、「知人に、相談機関や警察に相談するようアドバイスすると思う」、「信頼できる人（教育カウンセラーなど）に相談するよう勧めると思う」では、女性の回答割合が男性に比べ14～18ポイント程度高く、相談への関与意向の高さがうかがえる。（図表-47）

図表-46 デートDV相談対応（全体）



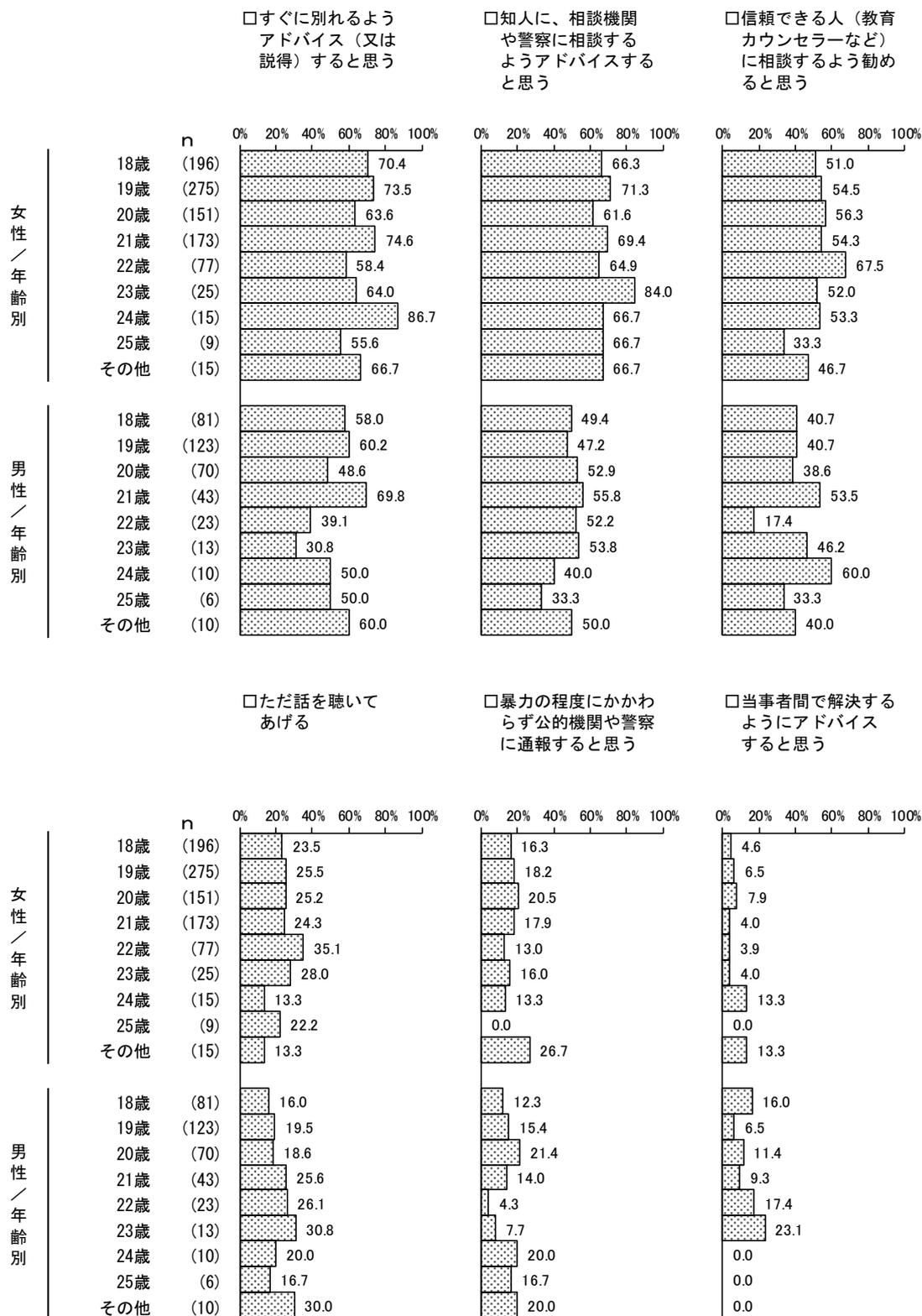
図表-47 デートDV相談対応（性別）



性年齢別では、大きな傾向の違いは見られない。(図表-48)

図表-48 デートDV相談対応(性年齢別)

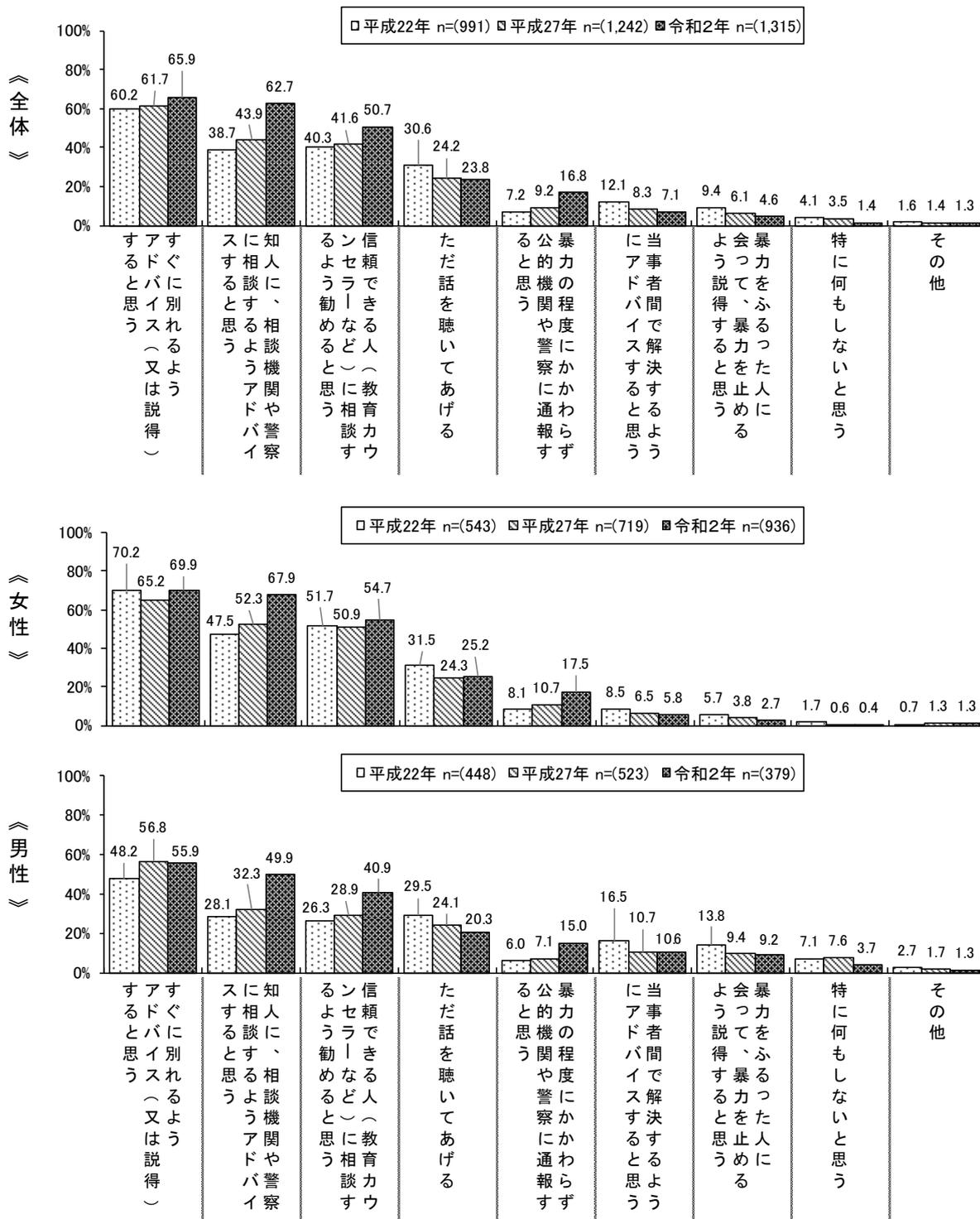
<上位6項目>



時系列比較では、平成27年に比べて「知人に、相談機関や警察に相談するようアドバイスする」の増加幅が最も大きくなっている。また、性別にみても、全体とほぼ同様の傾向が見られる。

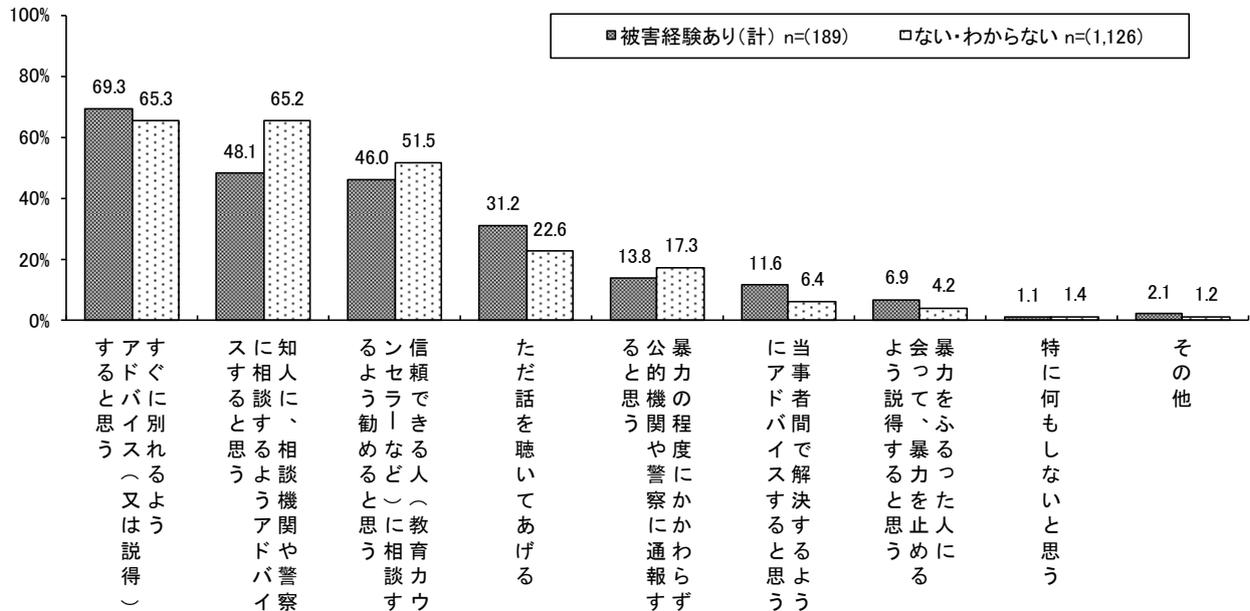
(図表-49)

図表-49 デートDV相談対応（時系列比較）



被害経験別では、被害経験の有無にかかわらず、「すぐに別れるようアドバイス（又は説得）すると思う」が最も高くなっている。また、被害経験なしの場合では、ありの場合に比べ「知人に、相談機関や警察に相談するようアドバイスする」が高くなっている一方で、被害経験ありの場合では、なしの場合に比べ「ただ話を聴いてあげる」の割合が高くなっている。（図表－50）

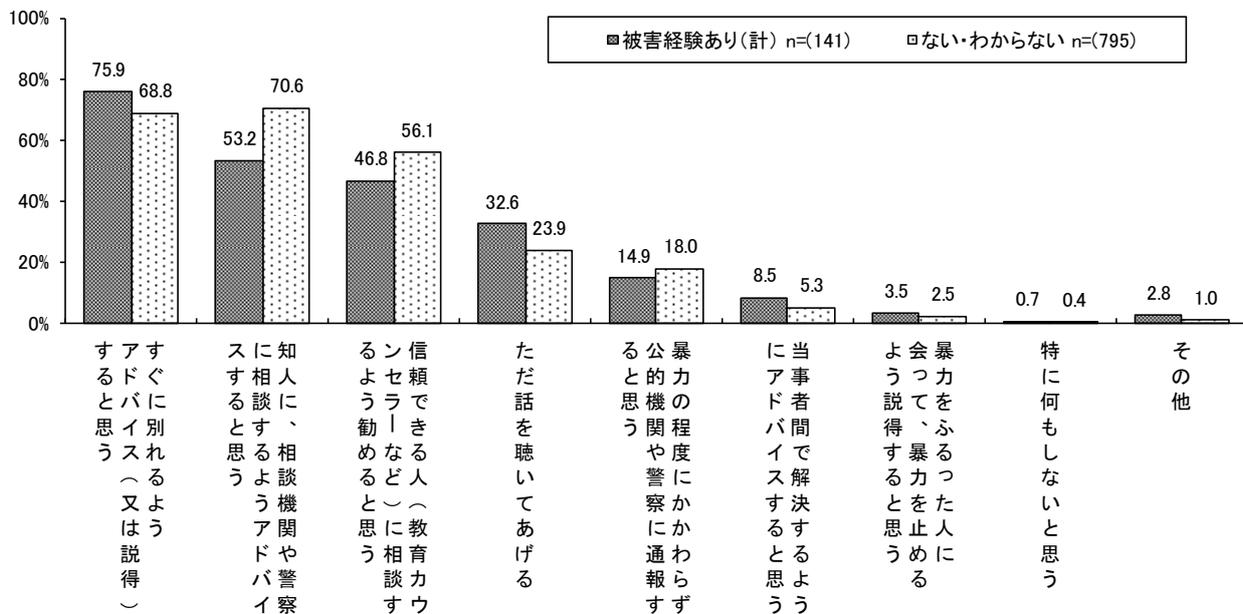
図表－50 デートDV相談対応（被害経験別／全体）



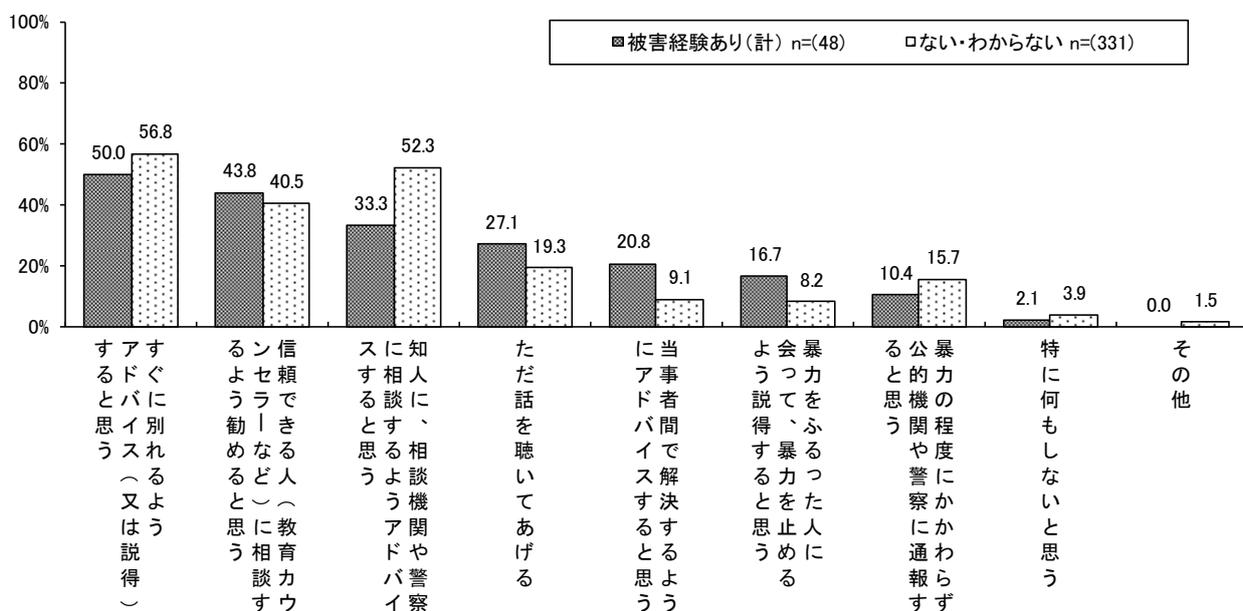
被害経験別を性別でみると、女性では、被害経験ありの場合は「すぐに別れるようアドバイス（又は説得）する」と思う」が最も高く、被害経験なしの場合は「知人に、相談機関や警察に相談するようアドバイスする」が最も高くなっている。また、男性では、被害経験の有無にかかわらず、「すぐに別れるようアドバイス（又は説得）する」と思う」が最も高くなっている。（図表-51）

図表-51 デートDV相談対応（被害経験別／性別）

《女性》



《男性》



11. 各種相談窓口の周知状況

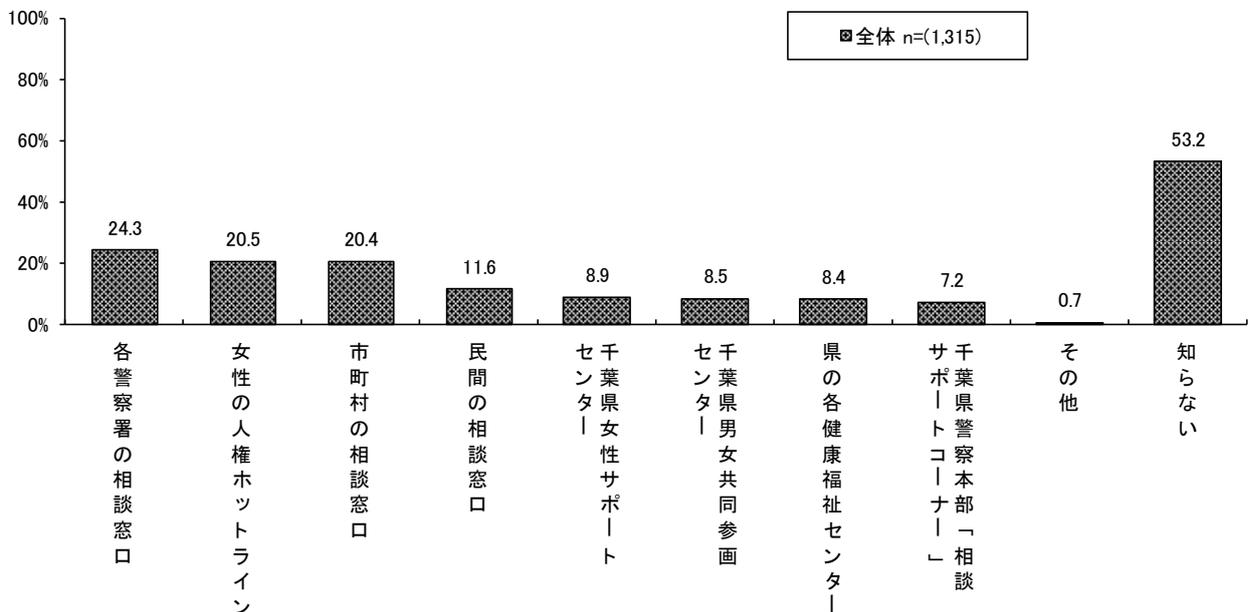
◆「各警察署の相談窓口」が2割台半ばと最も高い一方で「知らない」が5割台半ば

問11 あなたは、DVに関する次の相談窓口を知っていますか。(いくつでも)

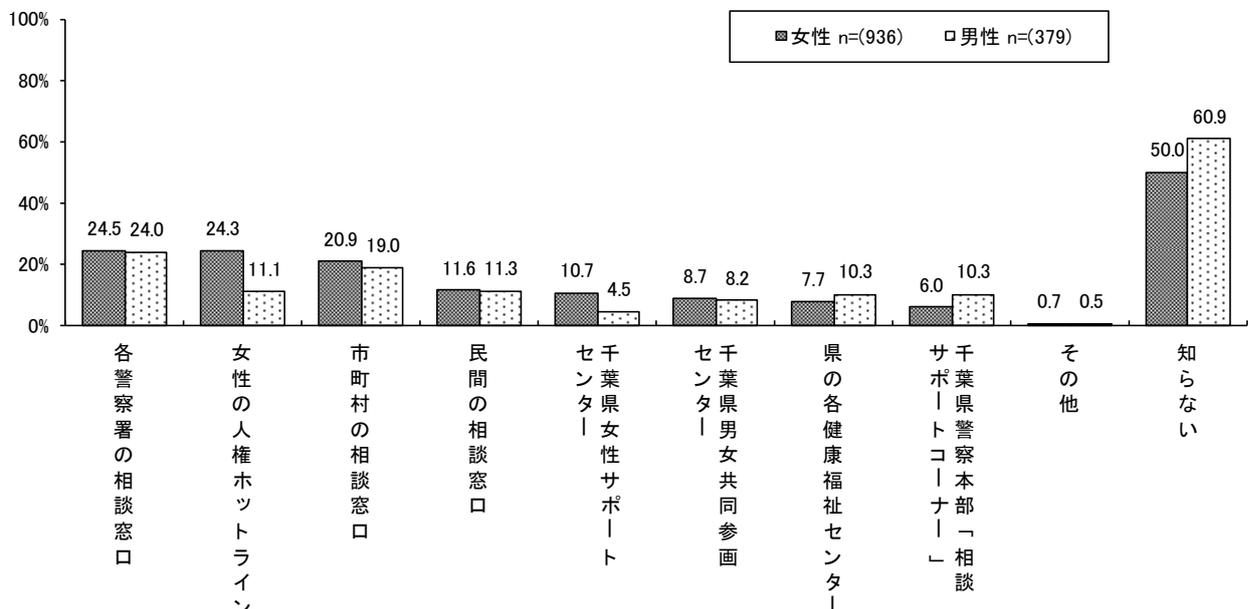
各種相談窓口の周知状況では、「各警察署の相談窓口」が24.3%と最も高く、次いで「女性の人権ホットライン」(20.5%)、「市町村の相談窓口」(20.4%)となっている。また、「知らない」は53.2%となっている。(図表-52)

性別でみると、「女性の人権ホットライン」では、女性(24.3%)が男性(11.1%)より13.2ポイント高くなっている。また「知らない」では、男性(60.9%)が女性(50.0%)より10.9ポイント高くなっており、男性の認知が女性に比べ1割程度低くなっている。(図表-53)

図表-52 各種相談窓口の周知状況(全体)



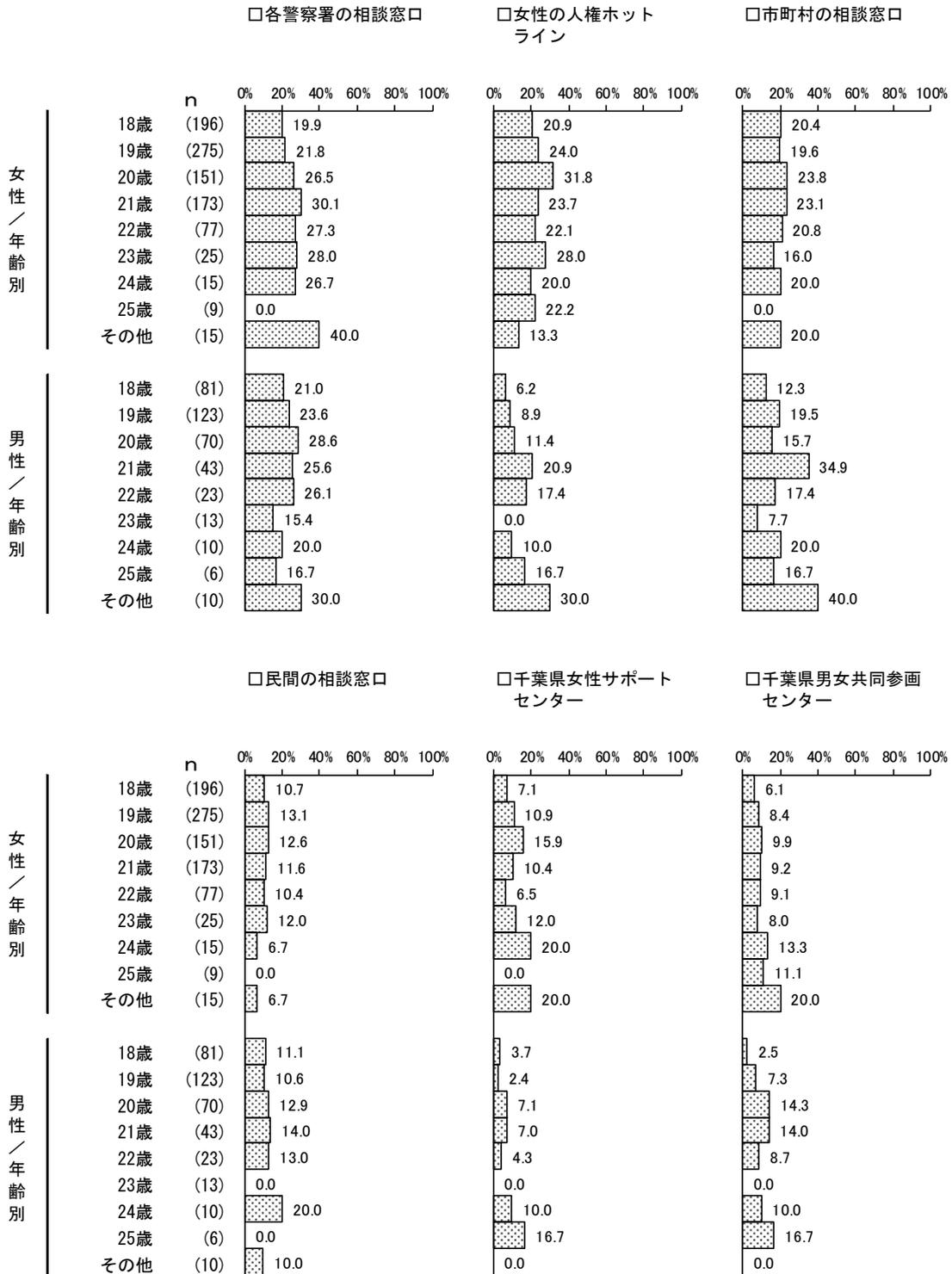
図表-53 各種相談窓口の周知状況(性別)



性年齢別でみると、「各警察署の相談窓口」では、女性の18歳（19.9%）と19歳（21.8%）が、他の年齢に比べ低めとなっている。（図表-54）

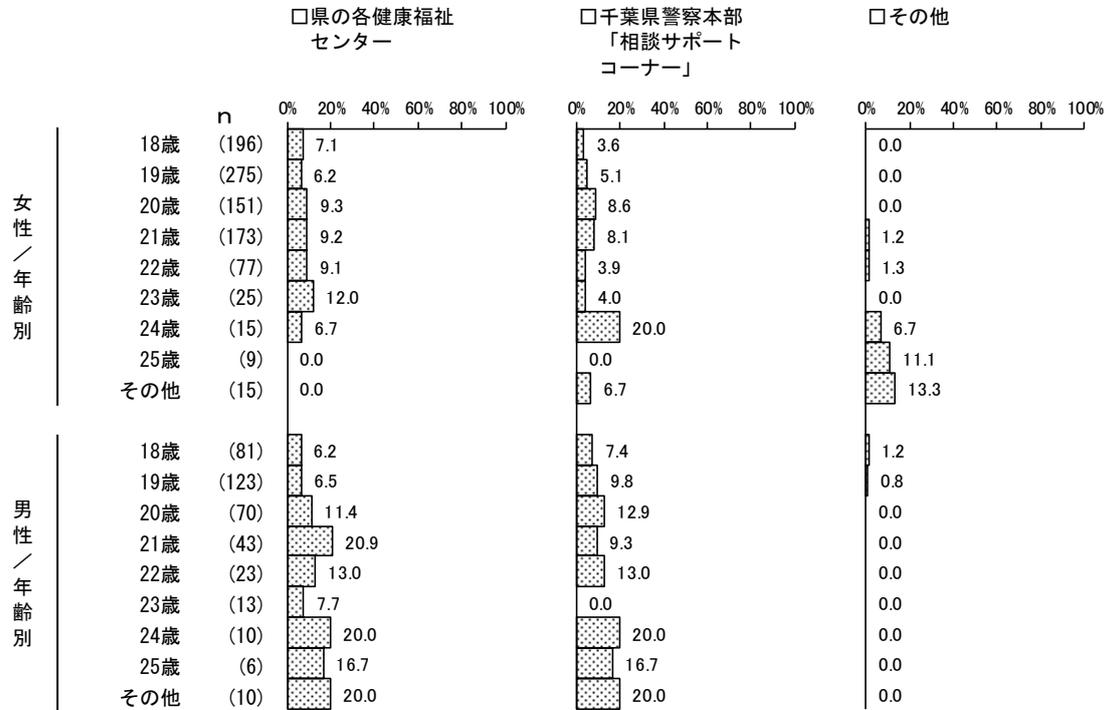
図表-54 各種相談窓口の周知状況（性年齢別）

<前半6項目>

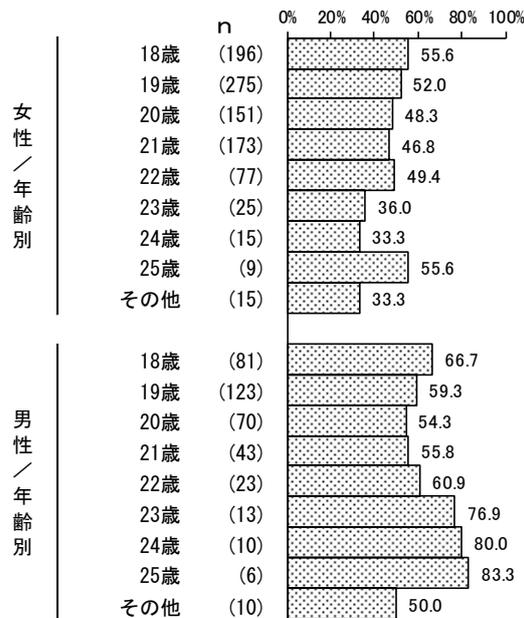


性年齢別でみると、「知らない」は、女性では概ね年齢が上がるに従い低下する傾向が見られるが、男性では18～20歳までは年齢が上がるに従い減少し、21歳以上は年齢が上がるに従い増加する傾向が見られる。(図表-55)

図表-55 各種相談窓口の周知状況（性年齢別）
 <後半4項目>

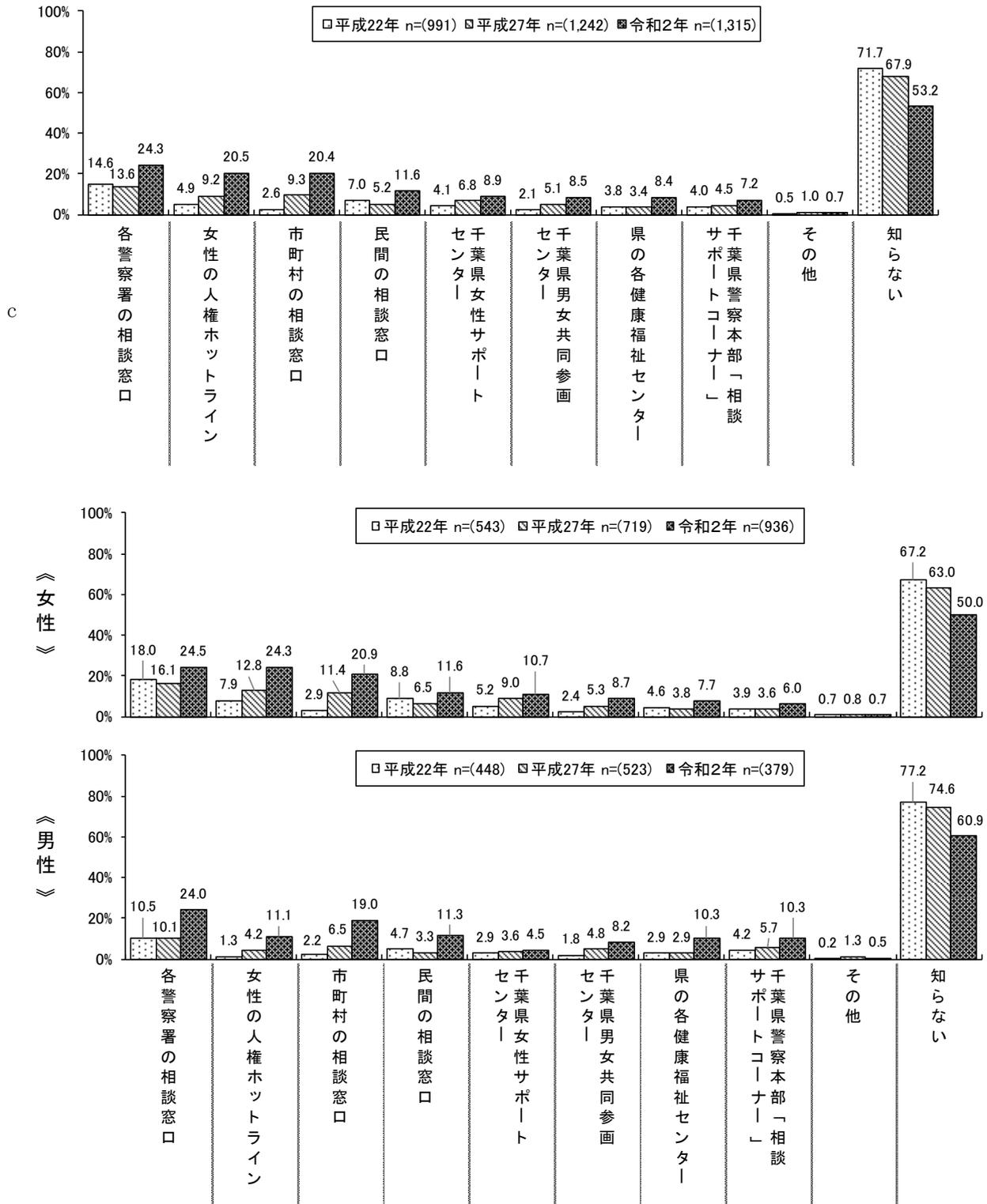


□知らない



時系列比較では、平成27年に比べて「各警察署の相談窓口」、「女性の人権ホットライン」、「市町村の相談窓口」はいずれも10～11ポイント程度の増加幅となっており、すべての相談窓口で増加が見られ、相談窓口の周知に一定の効果が出ていることがうかがえる。また、性別でも、ほぼ同様の傾向が見られる。(図表-56)

図表-56 各種相談窓口の周知状況(時系列比較)

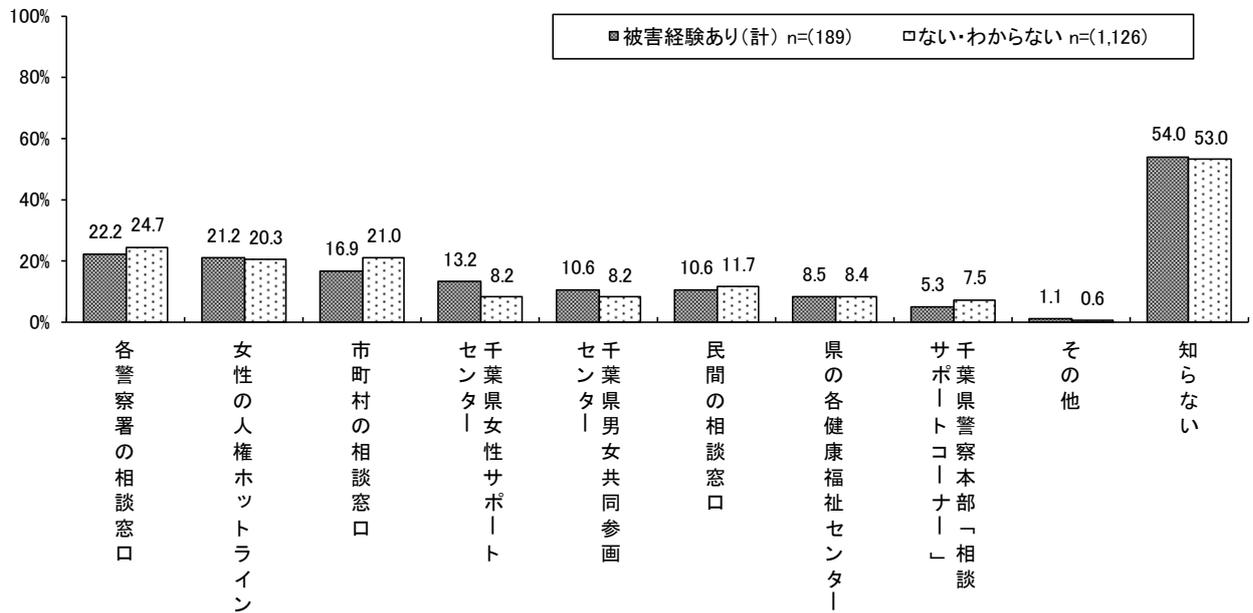


※「市町村の相談窓口」の平成22年は「市町村の男女共同参画センター」の選択肢での結果

※「千葉県男女共同参画センター」の平成22年は「千葉県ちば県民教センター」の選択肢での結果

被害経験別では、被害経験ありの場合は、なしの場合に比べ「千葉県女性サポートセンター」が高めとなっているが、「市町村の相談窓口」が低めとなっている。(図表-57)

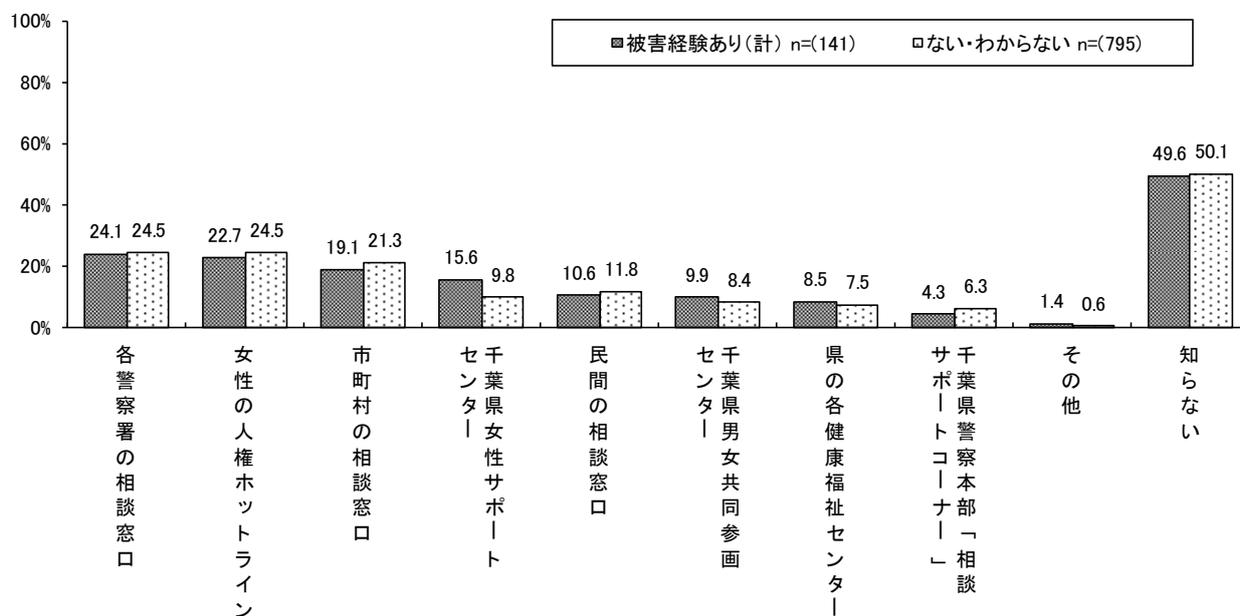
図表-57 各種相談窓口の周知状況（被害経験別／全体）



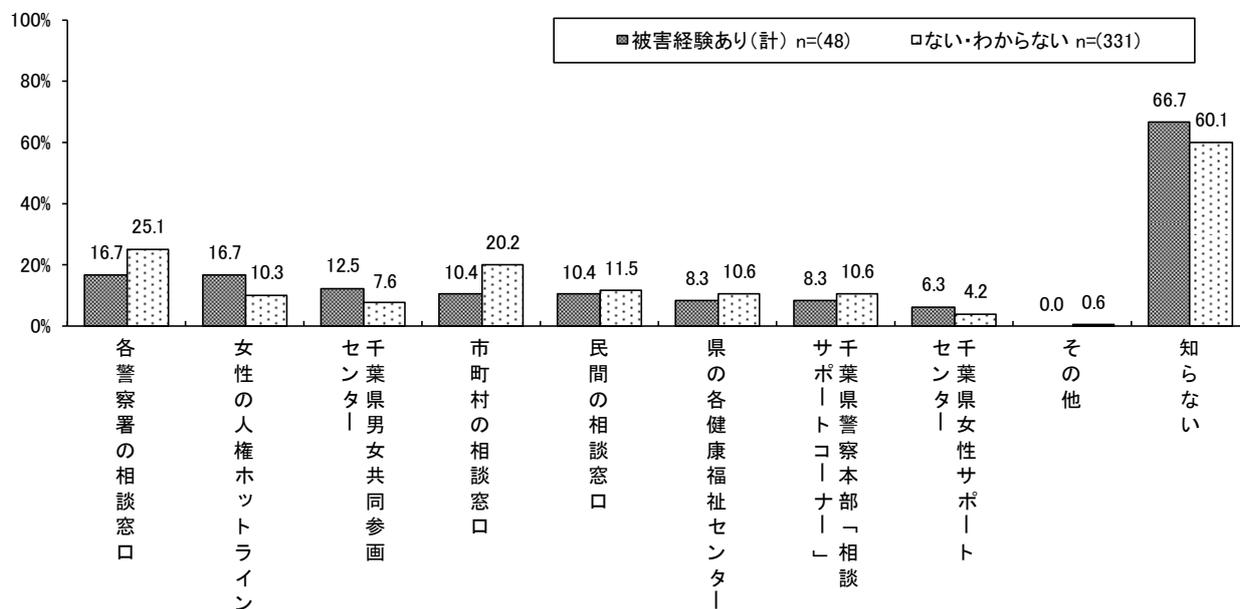
被害経験別を性別で見ると、男性で被害経験ありの場合は、なしの場合に比べ「知らない」の割合が高めの傾向が見られる。(図表-58)

図表-58 各種相談窓口の周知状況(被害経験別/性別)

《女性》



《男性》



12. デートDV防止施策

◆「生徒や学生を対象にした人権教育や性教育、DV予防教育を行う」が8割台半ばと最も高い

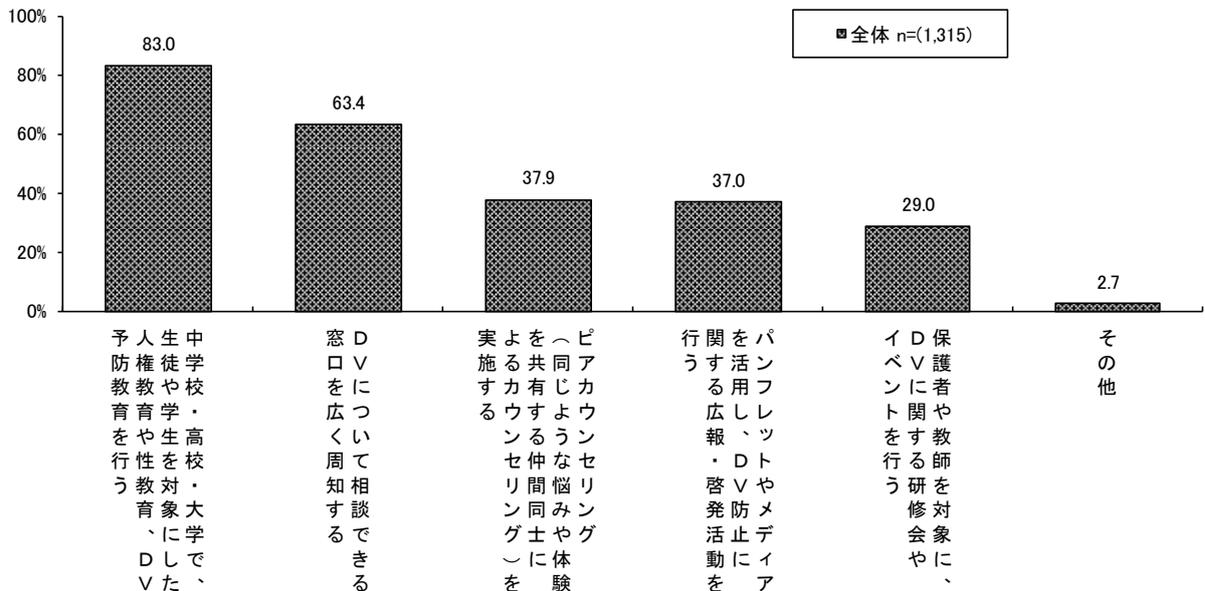
問12 あなたは「デートDV」をなくすため、どのような取組が必要だと思いますか。(3つまで)

デートDV防止施策では、「中学校・高校・大学で、生徒や学生を対象にした人権教育や性教育、DV予防教育を行う」が83.0%と最も高く、次いで「DVについて相談できる窓口を広く周知する」(63.4%)、「ピアカウンセリング(同じような悩みや体験を共有する仲間同士によるカウンセリング)を実施する」(37.9%)、「パンフレットやメディアを活用し、DV防止に関する広報・啓発活動を行う」(37.0%)となっている。(図表-59)

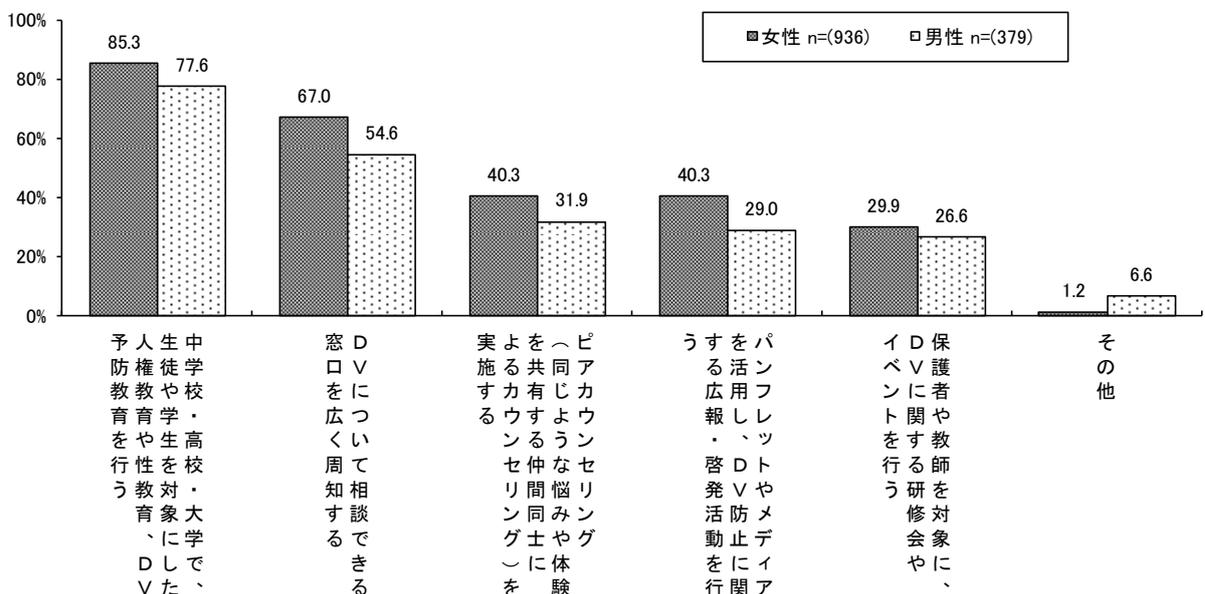
性別で見ると、「その他」を除くすべての項目で女性の回答割合が高く、男性に比べ取組への要望が強いことがうかがえる。特に「DVについて相談できる窓口を広く周知する」、「パンフレットやメディアを活用し、DV防止に関する広報・啓発活動を行う」で男性との差が大きくなっている。

(図表-60)

図表-59 デートDV防止施策(全体)

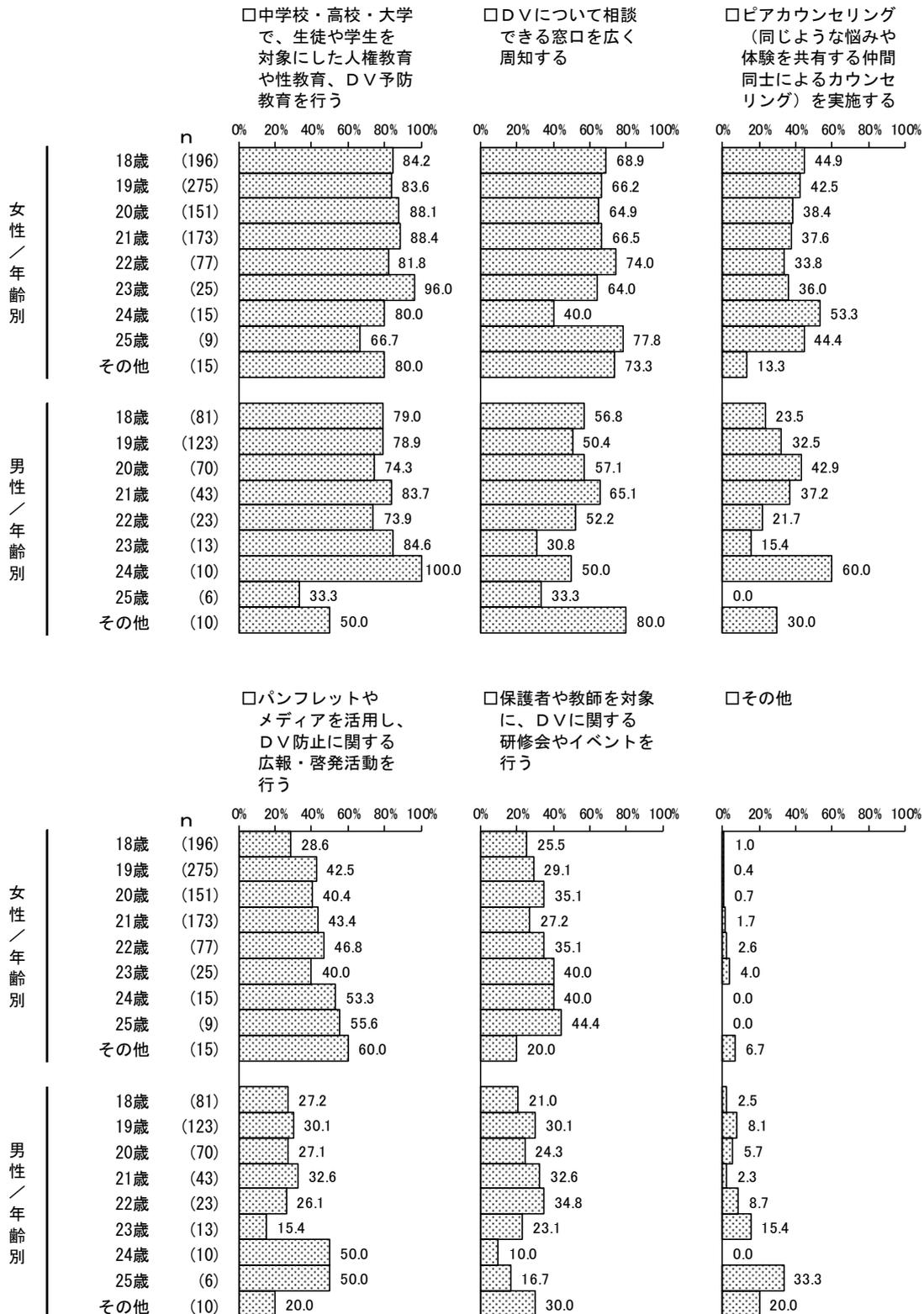


図表-60 デートDV防止施策(性別)



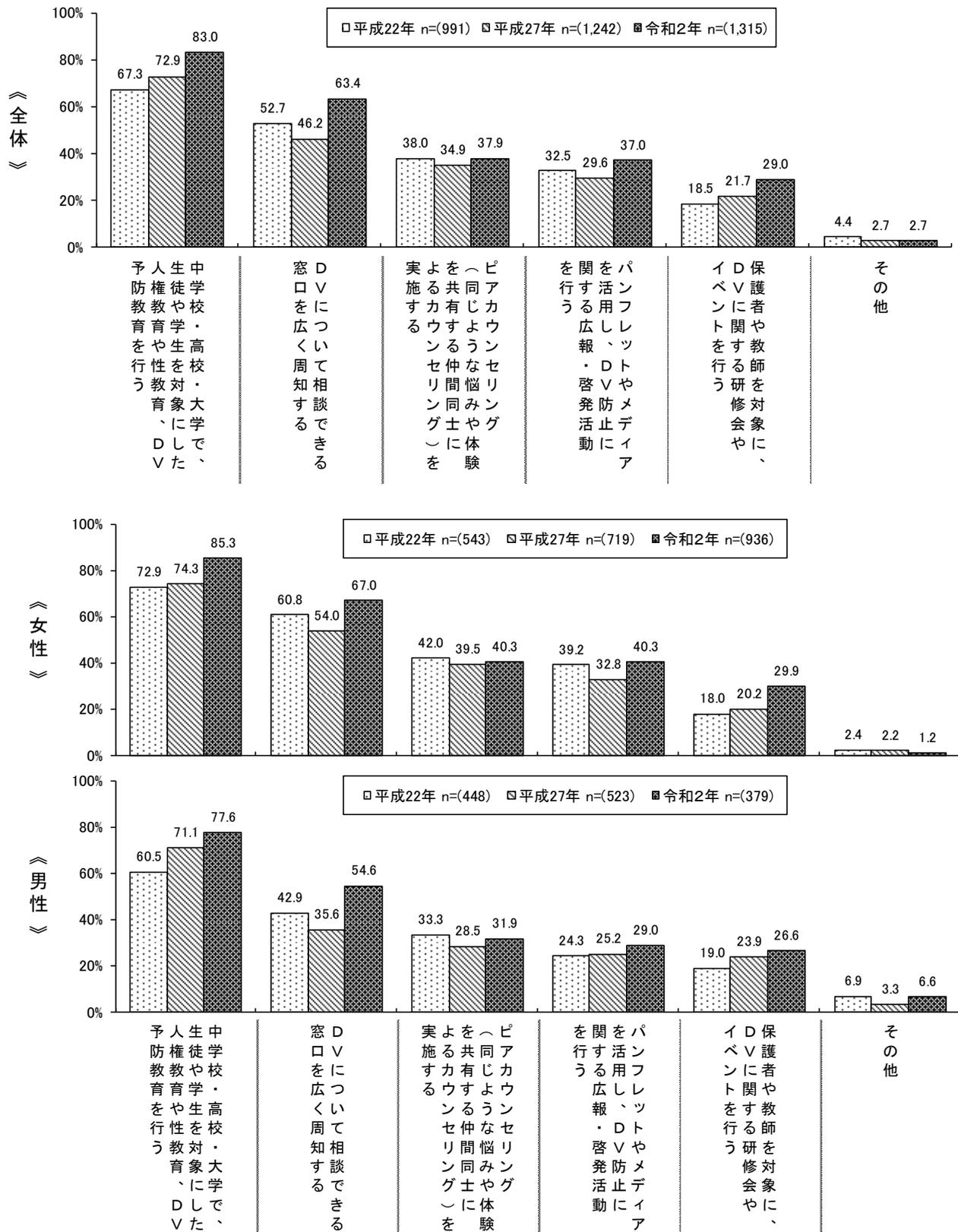
性年齢別にみると、「パンフレットやメディアを活用し、DV防止に関する広報・啓発活動を行う」、「保護者や教師を対象に、DVに関する研修会やイベントを行う」では、女性では年齢が上がるに従い、回答割合が高くなる傾向が見られる。(図表-61)

図表-61 デートDV防止施策（性年齢別）



時系列比較では、平成27年に比べて「その他」を除くすべての項目で増加が見られる。特に「DVについて相談できる窓口を広く周知する」、「中学校・高校・大学で、生徒や学生を対象にした人権教育や性教育、DV予防教育を行う」で増加幅が大きくなっている。また、性別でも、ほぼ同様の傾向が見られる。(図表-62)

図表-62 デートDV防止施策（時系列比較）



13. DV防止についての意見・要望（自由意見）

問13 DV防止についての御意見・御要望をお書きください。

【DVの捉え方】

- みんなが正しい知識をつけることが大切だと思う。
- もっと犯罪であることを分かりやすくしたほうが良いと思います。
- DVという言葉自体があまり好きではない。犯罪と断言して良いと思う。DVは犯罪ではない、という考えがどこかしらにあると感じる。
- 誰にでもありうることなので、私は違うと思うのではなく真剣に全ての人が向き合うべきことであると思う。
- DVは、1度経験してしまうとトラウマになってしまうだろうし、周りの人もなかなか気づいてくれない場合が多いと思います。その人の小さな助けを見逃さないように相談窓口に頼るだけでなく、私たちもその助けに気づいてあげるべきだと思います。
- DVする側の方は家庭内環境が大きく影響していると思うので、子どもだけでなく大人にも理解が深まっていかなければ解決しない問題なのではないかなと思いました。
- デートDVのことをあまり知らないなので、今後その行為を起こさない、やらないようにするために知るべきだと、今回のアンケートを通して感じました。

【社会的な対応】

- 誰でも加害者になる可能性があるため、教育現場等で正しい知識（道徳や相談する場があるということなど）を得ることが重要であると考えます。
- 学校でのDV防止の講座があり、しっかり学べたのでこれからも続けて頂きたいと思います。
- DV防止法について、女性に対しての講座の方がよく聞く気がするので、男性に対してもそのようなことが学べる場をもっと増やした方が良いと思う。
- もっと学校現場でもDVの恐ろしさを子供達に伝えるべきです。
- 小学校での教育の実施を検討してほしい。小学生でも恋人がいるケースがあるため。
- 当事者が気軽に相談できるネットワークを作れば気軽に誰でも相談できると思います。
- 相談窓口の周知や相談しやすい環境をつくることもっとも必要なことであると思う。
- ラインなどで気軽に相談できたらいいと感じた。
- DVについて相談のしやすい機関を今以上に作っていくことが大切なのかなと感じた。
- 最近、コロナ禍で自粛生活が続いていたのでDV被害が増加しているとニュースで見たことがあります。そのような被害に遭われている人が相談できる窓口があるということをいま以上に周知する必要があると思います。
- 最近CMで虐待通報の電話番号や防止に関するものを見たことがありますが、DV防止策としてCMなどを使って、多くの人に相談窓口があることを知ってもらうようにするのいいと思います。
- 各地域の相談できる場所があまり知られていないので広告を出したり、講習会で提示して欲しいと思いました。
- DVについての法律を厳罰化する。
- 強い者が弱い者に暴力や脅迫するのは卑怯であると思います。今後も厳しい取り締まりをお願いします。

Ⅲ 調査票

調 査 票

内の選択肢の中から、該当する数字に○を付けてください。○をつける数は（ ）に記載のとおりです。

問1 あなたの性別をお答えください。

1 女性	2 男性
------	------

問2 あなたの年齢をお答えください。

1 18	2 19	3 20	4 21	5 22	6 23	7 24	8 25
9 その他（ ）							

問3 あなたは、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」を知っていますか。（一つのみ）

1 法律（通称「DV防止法」）があることも、その内容も知っている。
2 言葉を聞いたことがあり、内容もほぼ知っている。
3 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない。
4 言葉も、その内容も知らない。

問4 あなたは、「デートDV（交際相手からの暴力）」について見たり聞いたりしたことがありますか。（いくつでも）

1 テレビや新聞などのメディアで見聞きしたことがある。
2 友人や家族などから話を聞いたことがある。
3 デートDVの講座等に参加（受講）したり、企画に関わったりしたことがある。
4 彼（彼女）から暴力を受けた人が身近にいる。
5 自分が、彼（彼女）から暴力を受けたことがある。
6 自分が、彼（彼女）に暴力をふるったことがある。
7 知人からデートDVに関する相談をされたことがある。
8 その他（ ）
9 見聞きしたことはない。

問5 彼（彼女）との付き合い方や恋愛について、あなたが参考にしたり、影響を受けたりしているものがありますか。（いくつでも）

1 テレビ・ラジオ	2 インターネット・携帯・スマートフォンサイト	
3 DVD・ビデオ	4 雑誌・マンガ・本	5 友達・先輩など
6 交際相手からの情報	7 家族	8 学校や大学の授業など
9 その他（ ）		

問6 彼（彼女）からの行為で、あなたが「デートDV」にあたると思うことは次のどれですか。（いくつでも）

- 1 たたく、ける、なぐる、髪を引っ張る、物を投げつける。
- 2 なぐるふりや刃物などでおどす。
- 3 腹を立てた時、相手の目の前で物をたたいたり、壊したりする。
- 4 嫌がっているのに性的な行為を強要する。
- 5 携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする。
- 6 人の前でばかにしたり、傷つく言葉を使う。
- 7 大声でどなる。
- 8 デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない。
- 9 「別れたら死ぬ」などのような脅迫めいたことを言う。
- 10 相手が何を言っても無視し続ける。

問7-1 あなたは彼（彼女）から以下のような行為をされた（されたかもしれないと思う）ことがありますか。（いくつでも）

- 1 たたく、ける、なぐる、髪を引っ張る、物を投げつける。
- 2 なぐるふりや刃物などでおどす。
- 3 腹を立てた時、相手の目の前で物をたたいたり、壊したりする。
- 4 嫌がっているのに性的な行為を強要する。
- 5 携帯電話やメールを勝手に見たり、友人との交遊を制限したりする。
- 6 人の前でばかにしたり、傷つく言葉を使う。
- 7 大声でどなる。
- 8 デートの費用をいつも払わせる。お金を貸しても返さない。
- 9 「別れたら死ぬ」などのような脅迫めいたことを言う。
- 10 相手が何を言っても無視し続ける。
- 11 ない・わからない。→ 問8-1へ

問7-2 その時あなたはどう感じ、どう対応しましたか。（あなたの気持ちや対応に近いものを3つまで）

- 1 こわくて何もできなかった。
- 2 自分が悪いせいだと思い、相手にあやまった。
- 3 イヤと言うなど、相手に自分の気持ちを話した。
- 4 その場から逃げた。
- 5 嫌われたくないから（別れたくないから）、我慢して相手に合わせた。
- 6 近くにいる人に助けを求めた。
- 7 別れを考えたが、別れなかった。
- 8 別れたい（別れよう）とは思わなかった。
- 9 別れた。
- 10 信頼できる人（友人や学校カウンセラーなど）に相談した。
- 11 相談窓口で相談した。
- 12 誰にも相談しなかった。
- 13 その他（）

問 10 問 6 に挙げたことは全て「デートDV」にあたると言われてはいますが、もし、あなたが知人から「デートDVを受けている」と相談された時は、どうしたいと思いますか。(いくつでも)

- 1 すぐに別れるようアドバイス(又は説得)すると思う。
- 2 知人に、相談機関や警察に相談するようアドバイスすると思う。
- 3 当事者間で解決するようにアドバイスすると思う。
- 4 暴力をふるった人に会って、暴力を止めるよう説得すると思う。
- 5 暴力の程度にかかわらず公的機関や警察に通報すると思う。
- 6 信頼できる人(教育カウンセラーなど)に相談するよう勧めると思う。
- 7 ただ話を聴いてあげる。
- 8 特に何もしないと思う。
- 9 その他 ()

問 11 あなたは、DVに関する次の相談窓口を知っていますか。(いくつでも)

- 1 千葉県女性サポートセンター
- 2 千葉県男女共同参画センター
- 3 県の各健康福祉センター
- 4 市町村の相談窓口
- 5 各警察署の相談窓口
- 6 千葉県警察本部「相談サポートコーナー」
- 7 女性の人権ホットライン
- 8 民間の相談窓口
- 9 その他 ()
- 10 知らない

問 12 あなたは「デートDV」をなくすため、どのような取組が必要だと思えますか。(3つまで)

- 1 中学校・高校・大学で、生徒や学生を対象にした人権教育や性教育、DV予防教育を行う。
- 2 保護者や教師を対象に、DVに関する研修会やイベントを行う。
- 3 ピアカウンセリング(同じような悩みや体験を共有する仲間同士によるカウンセリング)を実施する。
- 4 パンフレットやメディアを活用し、DV防止に関する広報・啓発活動を行う。
- 5 DVについて相談できる窓口を広く周知する。
- 6 その他 ()

問13 DV防止についての御意見、御要望をお書きください。

【自由記載欄】

以上で質問は終わりです。
御協力いただきありがとうございました。

千葉県のDVに関する取組は、千葉県庁ホームページをご覧ください。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/cate/kfk/jinken/gyakutai/dv/index.html>